週刊 YEAR BOOK

日録20世紀

1916
大正5年

9|8
平成10年9月8日発行
(毎週1回火曜日発行)
第2巻第33号 通巻76号
平成10年7月31日第三種郵便物認可
¥560
講談社

葉山「日蔭茶屋」で大杉栄刺される!
わが国初の労働者保護法「工場法」の実態
怪僧・ラスプーチンの死とロシア宮廷

新兵器「タンク」出現!

戦車、毒ガス、戦闘機、潜水艦……
第1次世界大戦と「新兵器」開発合戦
ソンム戦線に「タンク」出現!

▲戦線の後方では、絶えずタンクの性能テストが繰り返された。カナダ兵士を乗せて試験走行中のタンク。

一九一四年から一九一八年にわたって繰り広げられた第一次世界大戦では、人類が経験したことのない新兵器が戦線に投入された。戦車は塹壕を蹂躙し、飛行機は空中戦を展開、潜水艦は商船を沈め、毒ガスは兵士をパニックにおとしいれたのである。そして、これら新兵器は、その後の戦争に大きな影響を与えていく。

イギリス軍「戦車」が巨大さで敵軍を威圧

「な、なんだ! あの鉄の塊は! 塹壕を乗り越えて来るぞ!」

一九一六年九月一五日、フランス中北部のソンム戦線では、朝もやを突いて、巨大な鉄塊がドイツ軍陣地に迫りつつあった。時の海軍大臣、ウィンストン・チャーチル(四一)の肝いりで極秘裡に製造されたそれは、「水槽」のような形状から「タンク」と呼ばれた。この日の戦闘に投入された「タンク」、すなわち「戦車」は、全部で九両。少数ではあったが、小銃弾を跳ね返しながら進撃する戦車は、塹壕を守備するドイツ軍兵士に絶大な心理的圧迫を与えた。兵士の中には、銃を放り出して一目散に逃げ出すものもいたほどである。戦車はフレール村でドイツ陣地を撃破。その後も前進を続けたが、補給が続かないため、ドイツ軍を完全に撃退することはできなかった。

戦車をいち早く戦線に投入したのは、イギリス軍であった。膠着した西部戦線でドイツ軍の塹壕と鉄条網を破壊すべく、車体に、起伏に富んだ地面を走破できるキャタピラと砲塔(側面)を装備させた

▲前年4月、ドイツが開発した毒ガス兵器が西部戦線に登場。カイザー・ウィルヘルム研究所が液化に成功した塩素ガスだが、後にマスタードガスが使用され被害は悲惨さを増す。

Popperfoto ユニフォト・プレス

▲連合国軍は、毒ガス対策として当初は木綿に塩水を含ませた防具を使用。さらに活性炭で濾過するしくみのマスクを作った。写真は、防毒マスクを着用しヴィッカース社製機関銃で応戦する英軍兵士。

Popperfoto ユニフォト・プレス

▶2月21日、西部戦線のフランス軍要塞・ベルダンをめぐる攻防戦が始まる。上は戦い前のドゥーモン堡塁、下は陥落後。ドイツ軍は、新兵器の火炎放射器、150ミリ長距離砲を使用し、堡塁は原形をとどめないまでに破壊しつくされた。

◎表紙 9月15日、フランス中北部を流れるソンム川流域の戦線で、イギリス軍が新兵器「タンク」を前線に投入。 Popperfoto ユニフォト・プレス

戦車、毒ガス、戦闘機、潜水艦……
第1次世界大戦と「新兵器」開発合戦

ソンム戦線に「タンク」出現!

▲キール港に錨をおろした“海の狼”。無敵のUボートも、1917年、連合国側が護送船団方式を導入し建艦に力を入れ始めると、反撃による損失がふえていく。

のである。世界初の戦車「マークI型」は、全長八㍍、幅四㍍、重量二八㌧。その巨大さは、敵軍を威圧するのに十分。この新兵器に注目したフランスやドイツも、相次いで戦車を開発し戦線に投入した。

だが戦車が、戦局に与えた影響はさほど大きくはなかった。『20世紀の戦争』などの著作があり、兵器に造詣の深い三野正洋氏は、こう語る。

「当時の戦車は、あまりにも機動性と信頼性に欠けていました。走行時速は約六㌔程度。エンジンは非力で、ぬかるみで立ち往生したり故障もしばしば。そのため、期待されたほどの戦果はあげられなかったのです」

飛行機もまた、当初は戦局の帰趨を左右するほどの存在ではなかった。飛行機の任務は、偵察や対地攻撃、爆撃などだったが、装備はあまりに貧弱で、爆弾搭載量も少なかった。ドイツ軍機によるロンドン爆撃も敢行されたが、大戦を通じてわずか三〇〇㌧の爆弾を投下したにすぎなかった。それでも、各国は飛行機の軍事的将来性に着目し、新型機の開発と増強に力を入れた。たとえば、イギリスは開戦時には約七〇機しか保有していなかったが、大戦中だけで約五万五〇〇〇機を生産。ドイツも約五万機を製造した。両軍の塹壕上空では連日空中戦が繰り広げられ、八〇機を撃墜したドイツのマンフレート・フォン・リヒトホーフェンのような「空の英雄」も生まれた。こうして両陣営が次々に新型機を開発した結果、

◀第一次大戦初期、イギリス空軍のパイロットが、デュッセルドルフの飛行船格納庫を文字どおり「素手」で爆撃して世界を驚かせた。

ユニフォトプレス

飛行機の性能は飛躍的に向上する。

装備も、最初はパイロットが煉瓦を投げていたのが、コックピットに小銃を積むようになり、次いで旋回式の機銃を搭載。そして、機銃の発射とプロペラの回転を同調させるシステムも登場した。また、飛行機自体の性能も著しい進歩をとげる。大戦前半に活躍した、フランス軍のモラン・ソルニエL型の最高速度は一一五㌔。それが、三年後に主力となったスパッドS一三型では二一〇㌔と、約二倍にまでスピードアップしている。終戦後も開発競争は続き、第二次世界大戦では大きな戦果を挙げることになる。

「Uボート」と毒ガスがすさまじい威力を発揮

戦車や飛行機に比べ、潜水艦はすさまじい威力を発揮した。ドイツは「Uボート」と呼ばれる潜水艦を投入。一九一四年には、排水量四〇〇㌧、乗員二八人のUボート一隻が、英巡洋艦「アブキール」など三隻を、たった一時間で撃沈する大戦果をあげた。沈んだ英艦の総排水量は実に四万㌧、戦死者は一四六〇人を数えたのである。Uボートは、敵軍艦だけでなく、商船にとっても脅威だった。

「当時は探知機などの技術が貧弱なこともあり、潜水艦は無敵でした。特に、通商破壊においては最も効果的な兵器であることが証明されたのです」(三野氏)

ドイツ軍は、一九一七年一月から一〇〇隻近い潜水艦を動員して、第三次無制限潜水艦戦を開始。四月には八七万四〇〇〇㌧の船舶を沈めるにいたった。最盛期には、イギリスの港を出港した船舶の約二五㌫がUボートによって沈められたという。イギリス軍は、商船団に軍艦を護衛につける護送船団方式を採用し、これに対抗。被害を減らすことはできたものの、Uボートの脅威を完全に取りのぞくことは不可能だった。第二次世界大戦でも、ナチスのUボート艦隊は連合国の船舶をおびやかし続けるのである。

もうひとつの新兵器、毒ガスは兵士はおろか、銃後の一般市民までを恐怖におののかせた。毒ガス兵器が初めて本格的に使われたのは、一九一五年四月のベルギー、イープルの戦線であった。ドイツ軍は、ボンベ六〇〇〇本分の塩素ガスを、前線六㌔にわたって帯状に放出。フランス軍は逃げまどうばかりで、一万五〇〇〇人が中毒症状を起こし、うち五〇〇〇人が窒息死したのである。大戦後期には、より強力なマスタードガスが使用され、砲弾に毒ガスを詰めて発射する戦法もとられるようになった。一九一八年の西部戦線では、砲弾の四発に一発が毒ガス入りだったという。マスタードガスを吸いこんだ兵士は窒息し、ガスが肌に触れただけで火膨れを起こした。これに対処すべくガスマスクが配備されたが、兵士に与える恐怖感はすさまじく、犠牲者も跡を絶たなかったのである。そのため、終戦後の一九二五年、ジュネーブ条約で毒ガス兵器の使用は禁止された。

◀八月、巨砲を移動させるのに苦労するイギリス軍兵士。

毎日新聞社

これらの新兵器や軍艦、小銃を増産すべく、各国は官民あげて製造を続けた。第一次大戦は、部分的動員では対処できない文字どおりの総力戦となったのである。また新兵器は、戦果の大小にかかわらずその後の兵器に大きな影響を与えた。現在、戦車は陸軍にとって欠かせない存在になっており、空軍力の整備拡充には各国とも余念がない。冷戦下では戦略原潜も登場した。第一次大戦の新兵器は、威力を増して、今も最前線で使用され続けている。

泥沼化する総力戦

1916年には、膠着した各戦線で血みどろの戦いが繰り広げられた。ドイツ軍はパリ東方約200キロにあるベルダン要塞に対し、2月に攻撃開始。100万発近い砲弾が降り注ぐ中、フランス軍もよく耐え、約10ヵ月間一進一退の攻防が続いた。その結果、死傷者は両軍合わせて約70万人にものぼる。また、同年7月1日、フランス中北部のソンム戦線では、連合国軍の攻撃が開始されたが作戦は失敗、イギリス軍はこの日1日だけで5万7000人以上の死傷者を出す。それでもドイツ軍防御陣地への攻撃をやめず、5ヵ月間におよぶ戦闘の死傷者は、両陣営合わせて110万人。

一方、海上でも大艦隊が激突。5月31日、デンマークのユトランド半島沖でイギリス海軍151隻、ドイツ海軍99隻からなる大艦隊が会戦。数で勝るイギリス艦隊を相手にドイツ艦隊は善戦し、14隻のイギリス艦を沈めた。が、ドイツ側も11隻の軍艦を失い、6月1日、海戦は勝敗が決しないまま終わる。

Popperfoto ユニフォトプレス

▲ソンムの戦いで塹壕を飛び出し、着剣突撃するイギリス兵士。待ちかまえるドイツ兵士のかっこうの標的となった。

大杉栄、伊藤野枝、神近市子のもろくも破れた掟

"新しい女"がアナーキストを刺した!

葉山「日蔭茶屋事件」の顛末

▲事件の翌年、魔子が誕生。大杉（前列右、左が野枝）は「人民の中へ」を実践する意気ごみで亀戸の労働者街に移り住み、雑誌「文明批評」を創刊した。　近藤千浪提供

大正五年一一月八日、アナーキスト（無政府主義者）の大杉栄と女性運動家の伊藤野枝は、神奈川県・葉山の料亭旅館「日蔭茶屋」に投宿していた。そこへ、津田英学塾（現・津田塾大学）卒の才媛で元新聞記者の神近市子が乗りこみ、九日の午前三時、刃傷沙汰におよぶ。弾圧をおそれぬ社会主義者と、彼を信奉するインテリ女性たちが起こした恋愛事件は、その複雑な男女関係とともに、当時最もセンセーショナルな出来事だった。

労働運動指導者の性的スキャンダル

「どんなことがあっても眠ってはならない。眠れば、僕はもうお終いだ」

大杉栄（三一）は、葉山の「日蔭茶屋」の二階奥にある一〇畳の和室で、隣の蒲団に横たわる神近市子（二八）の殺気を感じ、自分にそう言い聞かせていた。

「いいかげん、打ち切り時だぜ」

数時間前、大杉はもう一人の恋人、伊藤野枝（二一）と滞在するこの旅館に乗りこんできた神近と対峙し、別れ話を切り出していた。

気を悪くした野枝が先に帰り、神近と二人きりになった夜、哀願のまなざしで蒲団にもぐりこんできた彼女を、大杉は「もうあなたとは他人です」と拒絶。若く情熱的な野枝を選んだ自分に、絶望した神近が何をしでかすかわからないという予感が、脳裡をよぎっていた。

嫉妬に狂う神近の短刀が大杉の首筋を襲ったのは、彼が睡魔に負けて眠りについた深夜の三時すぎ――。

「ふと僕は、咽頭のあたりに、熱い玉のようなものを感じた。『やられたな』と思って目をさました。『熱いところを見ると、ピストルだな』と僕は思った。そして前方を見ると、彼女は障子をあけて、室の外に出て行こうとしていた。『待て！』と僕は叫んだ。彼女は振り返った。（中略）彼女がゆうべ僕に泣きついて来た時の顔よりももっと憐れな顔を見た。『許してください』。彼女は恐怖で慄えながら叫んだ」（『大杉栄全集』第一二巻「お化けを見た話」）

大杉を短刀で刺した神近は、旅館を飛び出して派出所に自首。重傷を負った大杉は、逗子の千葉病院に運ばれた。普段は大杉を監視している刑事も、なぜか、この日に限って姿を消していた。

大正五年一一月九日、国際的な無政府主義者を、"新しい女"と言われたインテリ女性が刺したこの「日蔭茶屋事件」は、一大センセーションを巻き起こした。

大杉は東京外国語学校（現・東京外国語大学）在学中から、幸徳秋水らの平民社に加わり、幸徳の刑死後は日本の労働運動を指導していた人物。その大杉をめぐる女性たちの確執から起きた事件は、「悪魔の恋」「理屈言う新婦人も恋の前には平凡な女」とマスコミに騒がれただけでなく、同志の離反も招き、大杉の政治活動に打撃を与えたのだった。

▲20代後半の神近市子。フランス語の講習会で、大杉と顔を合わせた。

生活という現実の前に崩壊した"フリーラブ"

堀保子（三三＝明治の新聞人・堀紫山の妹）という年上妻までいる大杉が、「東京日日新聞」（現・毎日新聞）の女性記者の草分けだった神近、大正四年頃から平塚らいてうに女性誌「青鞜」の編集を託されていた野枝と、たてつづけに不倫関係を結んだのは大正五年の初め。

「近代思想」「平民新聞」を発刊するが次々に発禁処分を受け、自暴自棄におちいっている時期だった。「何もかも失った僕が、恋と同時に、その熱情に燃えた同志を見出した」心境だったという。

神近や、夫（辻潤・詩人）も子どももいる野枝に大杉が提案した"フリーラブ"のルールは、

「互いに経済上、自立をする」

「同棲せずに別居生活を送る」

「互いの自由（性も含む）を尊重する」

ところが、経済的に自立できたのは翻訳で生計をたてていた神近だけで、夫の

▶戦前の「日蔭茶屋」全景。　日影茶屋提供

▲大正4年、平民講演会にて。前列左から5人目が大杉の妻・保子。荒畑寒村は、当時の大杉は「やることなすこといき詰まり」だったと回想している。 近藤千浪提供

家を飛び出した野枝は正妻と別居中の大杉の下宿に転がりこむありさま。「野枝氏と下宿にゴロゴロしている大杉氏の身の廻りと小遣との一切を私が用立てていた」（「豚に投げた真珠」）と、後に神近自身が告白するように——自由恋愛の実験どころか——姐御肌の神近が、二人の生活費まで面倒をみたのが実状だった。

従来の性道徳を否定する大杉の恋愛観に女たちがうなずいて始まった先駆的なフリーラブの掟を、彼と野枝が破ったことで起きた「日蔭茶屋事件」は、同志的結合としての恋愛が、生活という現実の前にもろくも崩壊した出来事でもあった。

神近は、この事件で二年間監獄に服役。出獄後一年目に四歳下の文学青年とスピード結婚する（戦後は衆議院議員を五期つとめ、売春防止法制定などで活躍）。

一方の大杉は事件後、野枝と再婚。五人の子ども（革命家の名前をもじってエマ、ルイズなどと名づけた）に恵まれた。子煩悩な大杉は長女・魔子を連れ、「日蔭茶屋」によく遊びに来たという。

そして、大正一二年九月一六日、関東大震災後の騒ぎの中で、野枝とともに麹町憲兵分隊長の甘粕正彦大尉に連れ去られ、虐殺されたのである。両親を失った幼い子どもたちは親類に引き取られ、息をひそめるようにして育てられた。

「日蔭茶屋事件」を分岐点に、一方は監獄から政治家へ、もう一方は幸福な結婚から国家権力による虐殺へと、その運命は大きく分かれていった。

女性史研究家のもろさわようこ氏は、「日蔭茶屋事件」を次のように分析する。

「大杉は、古い男の性的放縦をアナーキズムの理論をまぶして正当化していた。そんな彼を信じた神近の経済的献身と犠牲に、身勝手な彼が無遠慮に甘えすぎて起きたのがこの事件だと思います。と同時に、〝新しい女〟をめざしながらも、男性追随から脱しきれなかった当時の女たちの悲劇がそこにあります」

ちなみに、「日蔭茶屋」で長年働いた三角しづという女性が、『日影茶屋物語—しづ女覚書—』で興味深い逸話を紹介している。

昭和五六年、神近が九三歳で逝去した後、「事件が起きた部屋を見たい」という年配の女性がこの旅館を訪れた。部屋を案内するしづが、「時に、どちらさまでしょうか」と尋ねると、女性は「大杉の身内でございます」と答えたという。

それは、「日蔭茶屋」の庭先でよく〝高い高い〟をされていた、大杉と野枝の遺児・魔子が父の足跡をたどる姿だった。

▶大正八年一〇月三日午前八時、東京監獄八王子分監を出監した神近市子。

女たちの肖像

松井須磨子と子役で共演！帝劇で本格的舞台を踏んだ水谷八重子の恵まれた出発

稲葉真弓

名女優として知られる水谷八重子がデビューしたのは、大正二年、わずか七歳だった。著名な劇作家で義兄の水谷竹紫が、劇団芸術座の有楽座公演に台詞のない群衆役として出演させたのである。三年後のこの年には、帝劇での「アンナ・カレニナ」にアンナ（松井須磨子）の息子役で出演。それも脚本家の松居松翁が、彼女のために台詞のある場面を書き加えるという破格の扱い。同年の関西巡業も、彼女の才能を見抜いた竹紫の奔走により、一週間、劇場は貸し切り、廊下まで花に埋まるという華麗なスタートだった。

水谷八重子はその生涯に三〇〇〇の役を演じ、演技の幅の広さにおいては他の追随を許さなかったが、下地を作ったのが、幼少時の環境だった。明治三八年、東京・神楽坂の時計商の家に末っ子として生まれた彼女は、四歳で父と死別、姉の嫁いでいた水谷家に引き取られ、姉や竹紫の庇護のもと、長唄や日本舞踊の稽古にかよった。

大正七年には、有楽座で上演されたメーテルリンク作「青い鳥」にチルチル役で出演。好評を博したが、当時彼女は規律の厳しい雙葉高等女学校に在学中。出演が問題になり、大正一〇年に作られた映画「寒椿」では名前を伏せ〝覆面令嬢〟と名乗るなど、学業と芸の間で苦労した。

一方で、井上正夫一座、文士たちの「演芸通話会」など新劇グループにも参加。大正一三年には竹紫らと第二次芸術座を再建、同年、松竹と専属契約を結び、舞台に映画にと押しも押されもせぬ花形女優となった。この頃、あまりの忙しさに東京の舞台と関西巡業の行き来に飛行機を使うことを思いつき、女性として初乗りをはたしたというエピソードもある。

昭和四年、花柳章太郎と初共演、これが縁で新派と深いかかわりができ、以後「新派の顔」としてなくてはならぬ人となった。

一二年、歌舞伎俳優・守田勘弥と結婚、長女・好重（後に良重＝女優）をもうけたが、家庭と芸の道の両立はむずかしく二六年離婚。同時期、劇作家の菅原卓とのロマンスが噂された。これは菅原の方が身を引き、後の彼女は芝居一筋。三一年日本芸術院賞受賞、四二年には芸術院会員となった。癌に冒されたのはこの頃である。三七年に最初の手術、以後一七年間舞台に立ちながら闘病生活を続け、昭和五四年死去。平成七年、娘の良重が二代目八重子を襲名した。

▲「アンナ・カレニナ」で松井須磨子と共演する水谷八重子。 毎日新聞社

勝者・敗者

穏やかすぎて出世が遅れ三六歳でようやく初優勝〝遅咲き〟西ノ海、横綱に！

阿部珠樹

明治から大正にかけての名力士というと、太刀山、栃木山、大錦といった名前が浮かんでくる。仏壇返しの荒技で明治末期から大正初期に無敵を誇った太刀山、その太刀山の牙城を崩し、出羽海王国を築いた栃木山と大錦、いずれも相撲史を飾る大横綱である。この三力士に抗して、孤軍奮闘したのが、二代目西ノ海だった。

西ノ海は九州・種子島の出身。初土俵は三つ年上の太刀山と同じく明治三三年。西ノ海が一月場所、序ノ口スタートだったのに対し、太刀山は五月場所、幕下付出から。すでにこの時点で差がついていた。

太刀山が入門から三年で入幕をはたしたのに比べ、西ノ海の歩みは遅かった。入幕したのは明治三九年五月場所。六年もかかっている。

幕に入っても、依然として出世の歩みは遅かったが、それには力士としては穏やかすぎる性格も関係していたと言われる。

しかし、ゆったりとした土俵態度には独特の風格があり、将来の大器と見る人も少なくなかった。

その西ノ海の素質がようやく開花するのが、この年、大正五年の一月場所だった。大関になっていた西ノ海は、胸を合わせての寄り身はもちろん、突っ張っての激しい勝負でも一歩も引かず、勝ち星を重ねる。千秋楽が終わった時の成績は八勝一分一休。ついに実力で太刀山をしのいだのだ。

明治一三年生まれ、この年三六歳という、とてつもない遅咲きの優勝だった。この成績が認められて、場所後、西ノ海は横綱に推挙される。

だが、頂点をきわめた西ノ海の背後には、栃木山、大錦の影が迫ってきていた。若い二人の台頭で、西ノ海に優勝の機会は二度と訪れなかった。ついに横綱在位わずか三場所で引退。

成績だけを取り上げれば、西ノ海は太刀山、栃木山にははるかにおよばない。しかし、強豪の谷間にあって、三〇代になってもなお闘志を燃やし、横綱にまでのぼりつめた執念は、長く好角家に記憶されることになった。

▶二月一六日、稽古場で不知火型の土俵入りを披露する西ノ海。 「写真タイムス」

「写真タイムス」

「写真タイムス」

▲大連に軍用自動車陸揚げ（1月31日）陸軍自動車隊47人と「満州」（中国東北部）の奉天（現・瀋陽）に向かい、氷点下20度の寒地で使用できるかどうかを、雪中の開原―鉄嶺―奉天でテスト。好成績をおさめた。

◀東洋一の大ドック完成（1月26日）横須賀海軍工廠が、3万トン以上の戦艦の入渠を実現するため、第5号ドックを起工、6年ぶり開渠式にいたった。写真は式後、開いた水門からドックへ奔流となって流れこむ海水。

「写真タイムス」

「イリュストラシオン」

▲メキシコで米人18人射殺（1月16日）米国のカランサ政権承認への報復で、パンチョ・ビリャ革命軍が凶行。米人経営の鉱山に向かう列車を襲った。写真は、革命軍掃討に出発の政府軍とそれを見送る米海兵隊（左）。

▶露特使が来日（1月11日）対独戦で劣勢のロシアが、皇帝名代・ゲオルギー大公を派遣。大公は戦費と軍需品の援助を求め、日露協約締結も約すなど活発に動いた。写真は神戸入港時の一行。

▶「大正バブル」始まる（1月4日）東京株式取引所が発会。前年の7割高の値をつける活況でスタート。この年、「投機が投機を呼ぶ」続騰で、野村徳七、久原房之助らが大金を手にした。

◀東京帝大教授が射撃訓練（1月17日）近衛連隊を学生約50人と訪問。論敵の吉野作造（37、右から二人目）と上杉慎吉（37、その左）が、一日新兵となった。

「写真タイムス」

大正5年1月

1（土）●袁世凱、帝制を宣言（3月22日、取り消し）。
2（日）●久留米俘虜収容所から独軍俘虜脱走（3日、憲兵隊が久留米駅で逮捕。4月にも二人逃走）。
3（月）●スウェーデン、金兌換を再開。
4（火）●株式取引所、発会。株急騰し前年末の七割高。
5（水）●熊谷一弥、マニラの東洋庭球選手権大会で、米国の有力選手破りシングルスに優勝。
6（木）●英議会、一八歳以上の独身男子徴兵法案可決。
7（金）●地中海航路最後の客船「熱田丸」帰着。以降欧州航路は独潜水艇回避のため喜望峰経由に。
8（土）●千葉・稲毛に飛行場開設の民間飛行家・伊藤音次郎、自作機で初の東京訪問飛行に成功。
9（日）●大阪砲兵工廠、新規十余人募集に河内周辺の農民ら一〇〇〇人以上が応募。
10（月）●中央気象台、全国測候所で二四時間観測開始。
11（火）●露皇帝名代・ゲオルギー大公来日（28日帰国）。
12（水）●福田和五郎ら、対中国問題などに抗議し大隈重信首相に爆弾を投じる。不発で暗殺未遂。
13（木）●森鷗外、史伝小説「渋江抽斎」を「大阪毎日新聞」に連載開始（～5月20日）。
14（金）●ベルリン―イスタンブール間を六〇時間で結ぶ「バルカン特急」運行開始。
15（土）●鉄鋼不足で関係者五〇〇人が国産化検討会。
16（日）●神戸・福原遊廓で火災、六八戸焼失し一人死亡。
17（月）●米国でプロゴルファー協会創設（4月、第一回トーナメントを開催）。
18（火）●海軍、中国動乱拡大で第三艦隊を上海に派遣。
19（水）●原料不足と買い占めにより東京の諸物価が高騰、日用品四六品中、四〇品目値上げと日銀。
20（木）●米価調節調査会、米の長期貯蔵法研究を答申。
21（金）●全国織物業者大会、一四時間労働継続を決議。
22（土）●陸軍の国産飛行船が所沢―大阪の飛行に成功。
23（日）●千葉で逓送中の二五〇〇円を、制服を着てだまし取った元郵便局員三人が逮捕される。
24（月）●山川均、売文社に入社、雑誌「新社会」を編集。
25（火）●小学校教師への付け届け横行、「教師三日すれば止められぬ」のあてこすりが流行と新聞に。
26（水）●横須賀海軍工廠、大型ドック完成。
27（木）●住友家、本多光太郎の鉄鋼研究にと東北帝大に二万一〇〇〇円寄付（4月1日研究所設置）。
28（金）●東京高商、好況で五年ぶりに全員の就職決定。
29（土）●プロコフィエフ、露で「スキタイ組曲」初演。
30（日）●独飛行船がパリ空襲。死傷者多数で被害甚大。
31（月）●東京美術学校の長髪禁止に生徒反発と新聞に。

ニュース・ファイル 1916

フォト＋日録で再現する366日

大戦は三年目を迎え、ベルダン攻防戦、「タンク」初登場のソンムの戦いと死闘が続く。日本は後方にあって、軍需品中心の輸出は好調、維新以来初めて債権国に転じ、諸物価の高騰に悩まされながらも「成金」が続々誕生。未曽有の大戦景気に沸き返った。

◀大隈首相襲撃事件の公判開始（5月22日）政友会を買収するなど現政権は腐敗していると、1月、首相に不発弾を投げた国粋主義者7人が、東京地裁に。地裁で主犯・無期の判決が、控訴審では15年など、全員有罪だった。

「写真タイムス」

「写真タイムス」

▲ローマ教皇特使、参内(2月3日)ベネディクトゥス15世名代・ペトリ大司教が前月、長崎港に到着。この日、宮城で大正天皇即位を祝う親書を手渡した。参内後、各地の教会を訪れた。

「写真通信」

◀東西「成駒屋」競演(2月)東京・新富座で関西の大御所・初代中村鴈治郎(56)と、名女形・5代中村歌右衛門(50)が顔合わせ。写真は3日、東京駅到着の鴈治郎(右端)と初代の扇雀(14)。

「写真通信」

◀小田原沖で漁船100隻が漂流(2月28日)翌日までの暴風雨のため、出漁中の船が激浪に翻弄され遭難。駆逐艦が出動したが現場に近づけず、4人が溺死した。写真は、翌月1日朝、難破船を引き揚げる漁師ら。

「写真通信」

▶ロシアへ軍艦3隻譲渡(2月)第1次大戦で兵器不足に悩む露海軍の援助を決定。日露海戦で獲得した旧露戦艦の海防艦「相模」(写真)・「丹後」、2等巡洋艦「宗谷」を、4月ウラジオストクに回航した。

▲大戦景気に沸く造船・鉄鋼業界(2月)戦前に比べ、鉄材は約3倍に高騰。交戦国の需要にこたえる各社は、一挙に巨利をたくわえた。写真は、フル操業の大阪造船所桜島造船工場。

「写真タイムス」

▲私立大生が国家試験改正デモ(2月17日)高文試験制度改革を求め、明大・法大生ら500人が衆院に殺到。帝大生のみに認められている一次試験免除を、私大生にも適用せよと訴えた。

大正5年2月

1(火)●二木謙三ら、鼠咬症病原体スピロヘータ発見。
2(水)●大阪商船「大仁丸」、香港沖で英貨物船と衝突し沈没。一三七人死亡。
3(木)●横浜正金銀行など銀行団、露の戦費公債五〇〇〇万円の引き受けを決定(7日契約)。
4(金)●農商務省長崎水産試験所、「筑紫不知火」の観測実施。海中の燐光は夜光虫によると断定。
5(土)●二代目西ノ海に横綱免許。
6(日)●陸軍、奉天(瀋陽)で自動車の寒地運転試験。
7(月)●雛人形は狭い所に洒落たものを飾る傾向強く、小型で派手な東京ものが人気、と新聞に。
8(火)●衆議院、五億五三四〇万円(うち軍事費二五%)の五年度予算案可決(24日公布)。
●スイスで芸術運動「ダダイスム」起こる。
9(水)●英、日本にインド洋・シンガポール方面への軍艦派遣を要請(3月30日、軍艦八隻派遣)。
10(木)●東京の寄席で「娘手踊」が流行、と新聞に。
11(金)●内務省、感化救済事業を行う全国一八四団体に、五〇~六三〇円の奨励助成金を配付。
12(土)●貴族院、海軍航空隊設置費六二万八六六〇円を初めて可決。飛行隊三隊の創設を承認。
13(日)●高田雪橇倶楽部、全国スキー競技大会を開催。
14(月)●東京市参事会、市電運賃値上げ案可決。創業以来初、片道四銭を五銭に(7月1日実施)。
15(火)●大阪・茨木中学に日本初の学校プール完成。
16(水)●連合国の頻繁な兵器注文に便乗、一攫千金ねらう「運動屋」五百余人が東京を暗躍と新聞に。
17(木)●英政府、娯楽用自動車の運転中止を呼びかけ。
18(金)●駐露大使・本野一郎、東支鉄道支線の譲渡条件に兵器提供と日露協約締結を露に申し入れ。
19(土)●鉱山試掘申請激増し、例年の五割増と内務省。
20(日)●久原房之助、孫文への七〇万円の借款締結。
21(月)●仏のベルダンで独・仏攻防戦開始(12月終結)。
22(火)●名古屋専売局火災で高級タバコ一五万円焼失。
23(水)●友愛会の野坂参三ら、労働者問題研究会結成。
24(木)●青島戦出撃の飛行将校、初の金鵄勲章受章。
25(金)●日本染料製造㈱設立。独からの輸入染料途絶のため、政府助成金受け国産化めざす。
26(土)●前年の写真結婚による日本人女性の入国者はハワイ、シアトルなど一四〇七人と米移民局。
27(日)●京都哲学会発会式。公開講演会に四〇〇人が来会(4月、機関誌「哲学研究」創刊)。
28(月)●私設鉄道同志会設立(後に私鉄経営者協会)。
29(火)●独、米国武装商船攻撃含む潜水艦作戦を強化。

「写真通信」

▲東京・上野公園で「海の博覧会」(3月21日)不忍池池畔の海事博会場の入り口に、砲身が16.4メートル、口径4.2センチという戦艦装備の巨砲を展示、増強する海軍の威容を示した。

「写真通信」

▲明治神宮、釿始式(3月25日)東京・代々木御料地内の本殿建設敷地で、祭壇の前におかれた長さ5メートルの御木を釿で打つ儀式を執行、大正8年竣工への緒についた。

「写真タイムス」

▲吉田松陰の碑除幕(3月27日)安政元年(1854)に海外渡航をくわだてて失敗した地、伊豆・下田に完成。幕末の志士に大きな影響を与えた、松陰の遺文「七年説」が彫られた。

▲第4次「新思潮」創刊(2月)新理知派と呼ばれた成瀬正一(23)、芥川龍之介(23)、松岡譲(24)、久米正雄(24)ら(右から)5人が同人。芥川の「鼻」など、力作が並んだ。

◀新硬貨を発表(3月30日)実価より安すぎ、贋造が多いなど不評の5銭白銅貨と、1銭・5厘銅貨を改鋳した。新白銅は穴開きが精巧、造幣局の自信作だった。

「写真タイムス」

▶東京力士、大阪入り(3月9日)翌日、難波で開幕の東西融和5周年記念大相撲に東京力士も出場。新横綱西ノ海を先頭に、梅田駅から三十余台の車で、天王寺公園の歓迎会場に向かった。

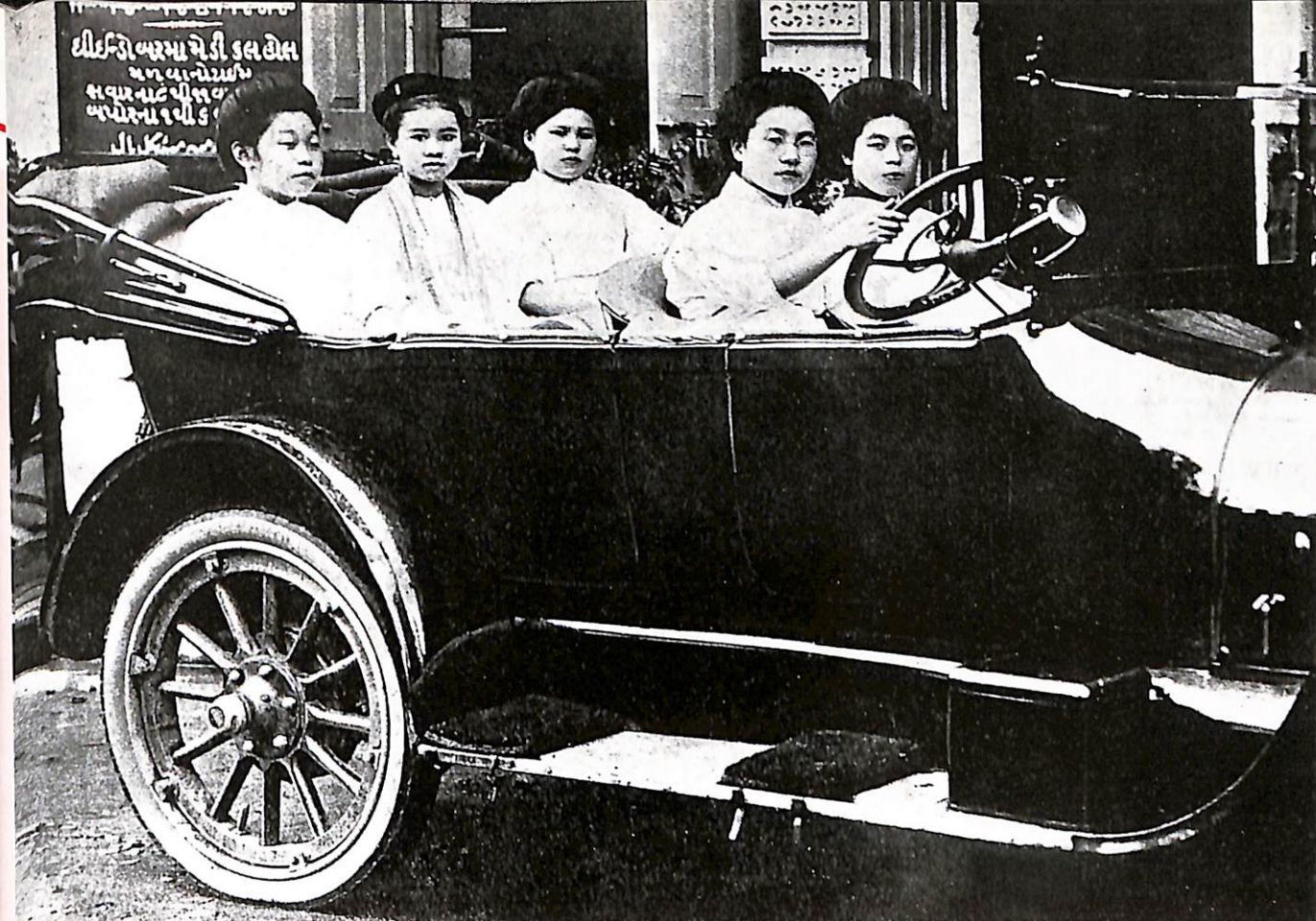
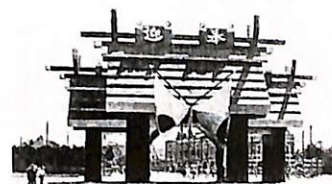
大正5年3月

1(水)●逓信省、電話郵便開始。電話の伝言取りつぐ。
2(木)●露への軍需品四五〇〇万円分の売却交渉成立。
3(金)●佃島から東京湾の白魚三箱を宮中に献上。
4(土)●豪政府、英領以外への羊毛輸出禁止を通告。
5(日)●永井荷風が慶大に辞表、三月末退職と新聞に。
6(月)●神奈川県庁に輸出羽二重検査所を設置。
7(火)●理化学研究所への国庫補助法公布。
8(水)●東京・大崎の日蓮宗大学で火災、校舎やチベットなどから購入の貴重書多数を焼失。
9(木)●メキシコのパンチョ・ビリャ革命軍が米領に侵入(15日米軍出兵、飛行隊も初の実戦参加)。
10(金)●全国染料業者大会、東京で開催。欧州戦による染料暴騰対策で商社・問屋の不当利益反対を決議。
11(土)●盛岡師範の女子生徒、カンニング発覚し自殺。
12(日)●輸入部品途絶で飛行機製造中止続出と新聞に。
13(月)●米国の好況で生糸相場昂進し前年の六割高。
14(火)●大阪朝日新聞社の写真班員、米飛行家・ナイルスの宙返り飛行に同乗し初の機上撮影に成功。
15(水)●三井鉱山と王子製紙、樺太の川上炭鉱取得。
16(木)●農商務省、干ばつ用溜池建設調査のため、香川など八県に自記雨量計の設置を通牒。
17(金)●輸出増加の紡績業界、工場拡大続くと新聞に。
18(土)●山極勝三郎ら、タールによる癌人工発生成功。
●海軍航空隊令公示(4月1日横須賀に開設)。
19(日)●女学生の制服制定が取りざたされる中、日本女子大は個性育成の観点から反対、と新聞に。
20(月)●アインシュタイン、一般相対性理論を定式化。
21(火)●大阪、木津川運河竣工(大正2年起工)。
22(水)●日本綿花㈱、米国に綿花買い付け会社設立。
23(木)●蚕糸業同業組合、第一回総会開催。
24(金)●英仏海峡で仏客船がUボートに撃沈され米国人ら一〇〇人以上死亡(26日、米が強硬抗議)。
25(土)●明治神宮建設の釿始式を挙行。
26(日)●大隈重信首相、山県有朋を訪問、加藤高明を後継首相に推薦(4月、山県、不賛成の返書)。
27(月)●内務省、大戦勃発以来開発のアスピリン、アルコールなど薬品六三種の国産が可能と発表。
28(火)●来日中の英「タイムズ」紙記者・ポーター、東京の華族会館で戦時の英国について講演。
29(水)●英、陶磁器・漆など奢侈品三十余点の輸入禁止。
30(木)●農商務省、米麦品種改良奨励規則公布。道府県試験場の改良事業に政府補助金交付。
31(金)●警視庁、被疑者などの護送に、馬車に代えて自動車使用を決定。

▲「反逆の志士」9人復権（4月11日）江藤新平（右上）が正四位、桐野利秋（左上）・前原一誠（左下）が正五位、村田新八（右下）らが従五位に叙された。維新に尽力しながら、政府に反旗をひるがえした人物たちだった。

「写真通信」

◀電話交換手の大潮干狩り（5月21日）東京中央電話局の交換手1000人が、日曜日に遠足会。千葉・稲毛に、大挙繰り出し、潮干狩りに興じた。この年、好況のため仕事は大忙しだった。

▲ビルマで日本人女医活躍（4月）東京女子医専卒業の依田（25）、菅野（26）女医と、看護婦二人でラングーンに開院。女医皆無のため診察を受けられずにいた、ビルマ女性にこたえた。写真は病院前で。

▶能楽殿を華族会館へ下賜（5月15日）前年、大礼還幸後の催しのため宮城内に新設。目もくらむばかりの舞台だった。昭和2年、会館とともに日比谷から霞ケ関に移築。戦災で焼失した。

「写真通信」

▲台湾勧業共進会が開幕（4月18日）台北・新公園内会場に台湾の物産を陳列、統治21年目の産業・交易の発展を期した。初日、閑院宮らが出席、華やかな開幕となった。

▶新設の朝鮮師団に連隊旗親授（4月18日）陸軍宿願の師団増設が前年に実現。宮中正殿で式典が行われ、大元帥姿の天皇から、7個連隊各旗手に大島陸相を通じ軍旗が授与された。写真は、東京駅に向かう連隊旗。

「写真通信」

「写真通信」

大正5年4月

1（土）●九州汽船「若津丸」、五島沖で沈没。乗員乗客一一五人中、一一二人が行方不明。
2（日）●友愛会初の地方連合会が福島県磐城で発足。
3（月）●天皇・皇后、神武天皇二千五百年祭に列席のため奈良・畝傍御陵に行幸。
4（火）●関東鳥獣保護規則改正、「兎」が対象外となる。
5（水）●チャップリン、年間六七万五〇〇〇ドルで映画会社と出演契約。映画俳優では世界最高。
6（木）●国民新聞社主催の理想的な新別荘地人気投票。一位は白河（福島）、二位は保谷（東京）。
7（金）●米国人飛行家・スミス、東京で曲芸飛行。
8（土）●仏教各団体、連合花まつり会を東京で開催。
9（日）●対中国綿糸輸出が好調、英・インドは船腹不足で振るわず、日本が独占と新聞に。
10（月）●大蔵省、銀行局設置。監督・指導を強化。
11（火）●逓信省、無線電話での電報業務を三重県鳥羽―神島―答志島で開始。世界初の実用化。
●矢野曲馬団、沖縄物産共進会で旗揚げ興行。
12（水）●森鷗外、陸軍軍医総監を依願退官。
13（木）●警視庁、売薬部外品営業取締規則公布。毛生え薬、強壮剤などの製造販売を規制。
14（金）●満鉄の撫順炭鉱で火災。中国人一五〇人死亡。
15（土）●横浜造船所設立（12月、浅野造船所に改称）。
16（日）●東京・上野の花見客三〇万人、と新聞に。
17（月）●日銀、公定歩合を二厘下げ、一銭八厘に。貿易収支改善され正貨充実のため積極策に転換。
18（火）●新設の第一九師団（朝鮮）七個連隊に軍旗親授。
19（水）●東京・京橋小学校、一七日の児童同士の殺傷事件で、加害児童放校と刃物携帯禁止を決定。
20（木）●女高師新入生の希望第一は文学、と新聞に。
21（金）●大阪地方裁判所新庁舎が落成。
22（土）●神道系の新宗教・大本教、皇道大本と改称。
23（日）●田中館愛橘、航空研究所委員長に就任。
24（月）●アイルランド・ダブリンで反英武装蜂起（一週間後、英軍が鎮圧。イースター蜂起）。
25（火）●経済調査会設置（会長・大隈重信）。
26（水）●英・仏・露、アジア・トルコ分割秘密協定に調印。三国の領有・支配範囲を定める。
27（木）●中国動乱で送金途絶えた中国人留学生がふえ、この日までに二千余人帰国、と新聞に。
28（金）●石原忍、徴兵検査用に色盲検査表を考案。
29（土）●大阪市の小学校長会議、小学生へのローマ字教育案を授業時間不足を理由に否決。
30（日）●京都の御大礼式場拝観最終日に十数万人入場。

証言・あの日この日
宮本百合子（17）

6月28日（水）〈坪内先生から『中央公論』の瀧田哲太郎と云う人への紹介を下さったので昼頃すぐ電話をかけて見ると、わきに人の声――瀧田さんと云う声が聞こえながら御留守を喰わしてくれた。非常に不愉快でたまらなかったけれ共しかたがない。明日なら八時頃に社に来ますと云う事なのでそれなら早速あした出かけ様と云うことにする〉（宮本百合子『宮本百合子全集』第23巻）

宮本（旧姓・中条）百合子はまだお茶の水高女の3年生だったが、早くから創作に目覚め、すでに何作も習作を試みていた。この頃、処女作「貧しき人々の群」を完成させ、師・坪内逍遙に見せると、この小説を高く評価し、「中央公論」編集長・瀧田樗陰を紹介してくれた。さっそく電話するが、居留守を使われる。が、あきらめない。翌日は、直接会社訪問を敢行する。（山崎行太郎）

「写真通信」

▲北海道で鉄橋崩落（5月7日）暴風雨のため空知川が3メートル以上も増水、翌日、函館本線の砂川―滝川間に架かる空知川鉄橋が2ヵ所にわたって崩落した。写真は、約60メートルの橋桁修復の難工事に挑む鉄道管理局作業員。

▼英・独、空前の大海戦（5月31日）海上封鎖に悩む独が、デンマークのユトランド半島沖で、英艦隊151隻の殲滅を企図し、99隻で交戦。双方25隻が沈没したが、大戦最大の海戦は勝負がつかなかった。

▲孫文、袁世凱の帝制取り消しを祝う（4月9日）1月に帝制を宣言後、列強の支持を失い、反袁勢力の拡大に、袁は3月、宿願を放棄。写真は亡命先の日本で事態を見守る孫文（49、中央）、その左、新妻の宋慶齢（23）。

「写真タイムス」

▲済生会病院が開院（5月30日）細民救済のために、明治天皇の下賜金で発足した恩賜財団済生会が、東京・芝赤羽に建設。院長・北里柴三郎。10月10日、大阪にも開院した。

▶極東五輪予選会を実施（5月20日）翌年に東京開催の日本初の国際大会に向け、大阪で代表選手を選抜。短距離走、棒高跳び、走り幅跳びなどを行った。写真は10マイル走。

「写真通信」

大正5年5月

1（月）●ベルリンで女性参加の大規模な休戦要求デモ。
2（火）●東京で点字図書二〇〇点の公開決定と新聞に。
3（水）●ベトナムでズイタイ帝の反仏蜂起計画発覚。
4（木）●東京の丸善書店、洋書では薬品・染料に関する化学・工学関係の売れ行き良好、と新聞に。
5（金）●警視庁、中小工場主集め第一回工場法講習会。
6（土）●国文学者・物集高見の大著『広文庫』『群書索引』の刊行会が、出版披露会を開催。
7（日）●同志会総裁・加藤高明、新党早期結成を言明。
8（月）●警視庁、私娼取締規則改正。私娼全廃をはかり、公娼拡張（11日廓清会、反対運動開始）。
9（火）●英・仏、大戦後のアラブでの勢力範囲を確定した秘密協定に調印（サイクス・ピコ協定）。
10（水）●日本蓄音器商会、海賊盤対策としてレコード価格を一円五〇銭から半額の七五銭に値下げ。
11（木）●神奈川県江ノ島の桟橋が崩落、修学旅行の女高生十数人が海に落下して、七人重軽傷。
12（金）●ロンドン銀相場暴落、中国銀行、銀の兌換停止。
13（土）●一高対慶大野球戦、一高勝利で両応援団熱狂。
14（日）●高杉晋作没後五十年祭、靖国神社で挙行。
15（月）●鉄道院、下車駅指定を廃し乗車距離制を制定。
16（火）●朝日新聞社編『野球年鑑』創刊。
17（水）●紛糾続く日本医専で生徒五百余人が退校届け（19日、文部省に善後策求め大挙陳情）。
18（木）●艦船令施行。軍用艦船を艦艇（駆逐艦・潜水艦など）と特務船（敷設艦など）に区分。
●豊田佐吉、自動織機の特許取得（代表的特許）。
19（金）●海軍省と石油二社の五年度重油供給は、油価高騰で価格が折り合わず、交渉断絶と新聞に。
20（土）●富士瓦斯紡保土ケ谷工場、託児所を設置。
21（日）●英で石炭節約のため一時間早める夏時間実施。
22（月）●千葉県多古町で工事中の排水から石油発見。
23（火）●三池炭鉱染料倉庫が焼失し、五〇万円の損害。
24（水）●日本火災に日本で初めて盗難保険を認可。
25（木）●五六連勝中の横綱太刀山が小結栃木山に敗退。
26（金）●夏目漱石、「明暗」を「東京朝日新聞」に連載開始（漱石の死で12月14日中絶）。
27（土）●トーダンスの高木徳子一座、浅草で初公演。
28（日）●東京弁護士会総会、会規めぐり乱闘となる。
29（月）●インドの詩人・タゴール初来日（5日入京）。
30（火）●済生会病院、東京・芝赤羽に開院。
●広島市、明治四〇年起工の下水道が竣工。
31（水）●英・独艦隊、デンマーク・ユトランド半島沖で大海戦（独、英の海上封鎖を突破できず）。

「写真タイムス」

▲国産初の戦闘機誕生(6月13日)沢田秀中尉らが所沢飛行場で建造中だった、機関銃1挺装備の小型飛行機「会式7号」が完成。沢田みずから操縦した。

「写真通信」

▲大嘗宮、焼却(6月15日)前年に行われた大嘗祭祭殿が取り壊され、大八車60台で京都・鴨川上流の焼却場に運搬。盛儀を偲ばせる神木が炎に包まれた。

「写真タイムス」

▼医師会、北里派でまとまる(6月14日)全国組織の創立で、東京駅ホテルで懇親会。対抗馬・青山胤道の欠席で、11月設立の大日本医師会は、北里柴三郎(63、和服姿)会長で一本化。

▲タゴール歓迎会(6月10日)東洋初のノーベル賞受賞者でインドの詩聖(55)が、東京・早稲田の大隈首相邸歓迎会に出席。「東と西が相交叉せる国」と日本を賞賛した。3ヵ月間滞在。

「写真タイムス」

日本郵船歴史資料館提供

▲日本郵船がニューヨーク航路開設(6月21日)第1次大戦で閉鎖していたパナマ運河再開により、アジアとアメリカ東海岸が船で接続、第1船「対馬丸」が横浜港を出港した。

「写真通信」

▶袁世凱、無念の急死(6月6日)南西部の革命勢力と、配下の軍に帝制実現をはばまれ、わずか「88日天下」で皇帝から大総統に降下、命を縮めた。56歳。写真は28日の葬儀。

大正5年6月

1(木)●大審院、徳島市立小学校施設での小学生死亡事故で、市に民事上の賠償を求める判決。

2(金)●文部省、教師向けに水泳講習会開催を決定。

3(土)●米、国家防衛法制定。米軍を四五万人に増員。

4(日)●露軍、東部戦線で大攻勢開始(9月までに露軍は約一〇〇万人の死傷者出し戦線停滞)。

5(月)●フサイン、ヒジャーズでトルコ軍を攻撃、「アラブの叛乱」始まる(10日、メッカを占領)。

6(火)●袁世凱死去。黎元洪が大総統に就任(7月14日、広東の反袁連合、軍務院解散。第三革命終了)。

7(水)●大蔵省、米価調整で英への一万トン輸出を決定。

8(木)●製鉄所外国留学の件公布。研究生を海外派遣。

9(金)●東京・新宿南町にチフス患者続出、町内を消毒。

10(土)●仏で建造の潜水艇「第一四号」、呉に到着。

11(日)●琵琶湖畔で捕獲された蛍一〇〇〇匹、滋賀県知事名義で東宮御所に献上。

12(月)●大阪鉄工所で一八〇人賃上げスト、全員解雇。

13(火)●陸軍、所沢で国産初の戦闘機を試験飛行。

14(水)●連合国経済会議、パリで開催(~17日)。

15(木)●文部省、学校衛生官設置。学校衛生を重視。

16(金)●内務省、神奈川県御幸村の多摩川堤防建設で、神奈川県に東京側より一メートル低い築造を命令。

17(土)●「博多毎日新聞」の部落差別記事に福岡市の三〇〇人が新聞社に抗議。検挙者多数。

18(日)●宙返り空中戦法を考案した独パイロット・インメルマン、英機との交戦で撃墜され戦死。

19(月)●京都市会、市庁舎と公会堂建築案可決。

20(火)●東京の友愛会六支部が連合した大演説会で、渋沢栄一ら演説。二〇〇〇人入場。

21(水)●日本郵船「対馬丸」、パナマ運河経由・東回り航路ニューヨーク線の第一船として横浜出港。

22(木)●警視庁、帝国ホテルの内濠への排泄物たれ流しは目にあまると、汚物の汲み取りを厳命。

23(金)●逓信省、貯金総額二億五三〇〇万円、前年より五〇〇〇万円増で史上最高の増加と発表。

24(土)●朝鮮総督・寺内正毅、元帥の称号を受ける。

25(日)●東京・下谷区の青年六〇〇人が義勇団結成。

26(月)●中国地方各地で洪水、山陽本線が不通になる。

27(火)●シェークスピア没後三〇〇年記念劇「マクベス」を、無名会が横浜座で上演。

28(水)●内務省、保健衛生調査会を設置。

29(木)●東京帝大、文科卒業の優等生発表。芥川龍之助、藤森成吉、石田幹之助、豊田実ら八人。

30(金)●閣議、日露協約調印を正式決定。

「現場」を歩く 端島

廃墟と化した「軍艦島」から本籍を移動しようとしない元住民の思い

山本徹美

▲無人島に残る日本初の高層鉄筋アパート。内庭を備え、地階には売店があった。 但馬一憲

大正五年一二月三一日、三菱合資会社の「端島四階建坑夫社宅」(『三菱社史』)が竣工。高層住宅に鉄筋コンクリート造りが採用されたのは、わが国初であった。

端島は、長崎港から南西へ約一九キロの東シナ海に浮かぶ小島である。島の規模は東西一六〇メートル、南北四八〇メートル、周囲一・二キロ、総面積約六万三〇〇〇平方メートル。佐賀藩の支藩・深堀藩が所有していたが、すでに文化七年(一八一〇)露出炭が発見されるなど、豊富な石炭資源に着目した岩崎彌之助が明治二三年九月一一日、鍋島孫六郎(元深堀藩主)から一〇万円で購入した。以後、海底に炭鉱を求め掘削、大正五年当時は年間約一五万トンを採掘、八幡製鉄所に供給していた。

社宅に最新建築技術が導入された背景には、過酷な居住条件がある。敷地が狭いうえに台風や時化による水害、塩害にさらされ、いったん火災が発生すると消火活動は困難をきわめる。孤島ゆえに鉄筋コンクリート建築を必要としたのだ。

当初、四階建てだったアパートは、その後増築され七階建てに。続いて九階建てのアパート五棟が完成。大正一〇年、「長崎日日新聞」は端島の外観が戦艦「土佐」に似ているとして、「軍艦島」と報じ、通称として定着した。

昭和三〇年代の最盛期には人口は五三〇〇に達し、建物は合計七一棟を数えた。便宜上、神社を一号棟とし、大正五年建造のアパートは「三〇号棟」と呼ばれた。端島炭坑は昭和四九年、閉山。

軍艦島に寄せる思い

端島へ行ってみた。閉山時、二二〇〇人いた住民はすべて引き払い、電気も水も遮断されている。崩落する建築群。聞こえてくるのはもの悲しげな鳥の声と、風に揺れるガラス戸の侘びしい音。「三〇号棟」は内部こそ壊滅状態だったが、外枠は要塞のように頑丈だった。私の脳裡に「不沈艦」という言葉が浮かぶ。

この島の岸壁部分は国有地だが、その内側は三菱マテリアルの〝私有地〟。

「とりあえず更地にしなければ買い手がつきません。が、不況のこの時期、大金をかけて上物を取り壊すのはむずかしいし、反対する声もあるでしょうし……」(三菱マテリアル九州支社総務課)

堅牢さがかえってアダになったとも言える。自治体も有効活用に苦慮している。

「観光地化するには遊歩道など安全整備が必要で、何億円もかかる。上陸せず、遊覧船による展望を検討中です」(高島町役場・八木俊一総務課長補佐)

端島出身の石川東氏(同役場環境水道課)が「ふるさと」に寄せる思い出。

「台風の後、アパートの屋上には寄せた波の潮だまりができる。そこで僕らは野球をやった。ホームランを打ったら即チェンジという特別ルールで。自分の住居が、何号(棟)の何階だった、と言うだけでお互いが通じ合う。今は無人島なのに、本籍は端島のままで誰も移動しようとはせんです」

こうした人々の「思い」が軍艦島から受けるノスタルジアの源泉だと知った。

長崎新聞社提供

▲明治39年頃の端島。島の周辺を埋め立てながら堤防の拡張を繰り返し、今日の形状に。

ベストセラー

「現代婦人の行くべき道」を巻頭文に「婦人公論」創刊！

この年、大きく揺れ動く時代を象徴するような出版物が、正月早々から刊行された。ひとつは、〝プロレタリア文学〟の先駆となった宮嶋資夫の小説『坑夫』であり、もうひとつは女性の自立をうながすことを目的に編集された「婦人公論」の創刊号である。

宮嶋資夫の『坑夫』は鉱山で働く一人の坑夫が主人公だが、これが型破りな男。腕っぷしも強く、仲間に妥協しない一本気な人物だが、鉱山周辺の自然に包まれてもの思いにふけるようなナイーブさもある。それがついに仲間の反感を呼んで悲劇的な結末を迎える小説だが、序文に堺利彦と大杉栄というアナーキストの指導者が筆をそろえたせいもあって、発売後ただちに発禁となってしまった。

また「婦人公論」創刊号では、安部磯雄が巻頭に「現代婦人の行くべき道」と題するエッセイを書き、「先づ教育財政の二方面から女子が自覚して実力を養つて行くやうに為れば、やがて婦人も男子と同じ地位に進み、相互に尊敬を払うて、侮辱を加へるやうな事はないであらう」などと、権利意識に目覚めた若い女性たちを鼓舞した。

ほかに長田幹彦、田村俊子、巌谷小波らの小説のほか、「不良少年を産んだ家庭」「薄命に泣いて居る女」「女子職業調べ―電話交換手―」といった記事が並んだ。

同じ年の一〇月に刊行された小山内薫の小説『江島生島』も注目された。積極的に西欧の文化を取り入れ舞台で活躍していた小山内薫が、江戸の歌舞伎とその周辺を題材にして、役者と観客との関係を鋭くえぐってみせた。スター役者に次のように語らせたのも小山内ならではの演出だった。「同じ芝居を御見物下されますにしても、お女中方は〝役者〟の内に〝役〟を見てやらうとはなさらずに、〝役〟の内に〝役者〟を見ようとなされまする。へつらひ者の役者は又それをよい事にして……」と。

▲『坑夫』（近代思想社、45銭）

▲『江島生島』（新潮社、55銭）

◀「婦人公論」創刊号（中央公論社、20銭）

日本近代文学館提供（3点とも）

スターと名場面

イタリア映画「カビリア」特撮場面で観客を圧倒！

この年、イタリア映画「カビリア」が公開され、そのスケールの大きさがファンを圧倒した。話は、紀元前のローマとカルタゴ間の争いを題材にした、一種の貴種流離譚である。ローマの貴族の娘がエトナ山大噴火の折に両親とはぐれ、幾多の苦難を経てローマへ帰るというストーリー。その間、火山の噴火で壊滅状態におちいる町の様子や、ローマ軍の船がアルキメデスの考案した集光器によって焼かれていくシーン、象や羊を連れたカルタゴ軍のアルプス越えなど、ふんだんにもりこまれた特撮シーンが、映画の面白さを堪能させた。字幕も、そのデザイナーの名前がクレジットに記されるほど凝ったもので、動く絵物語としての完成度が高かった。

この頃邦画では、日活の尾上松之助の活劇に対抗して、天然色活動写真（通称・天活）がトリック撮影を駆使した忍術映画などに力を入れ、そのアクションスターとして、沢村四郎五郎を売り出し、相当の人気を得ていた。この年の出演作品には「曽我十番斬」がある。

また舞台の方では、後に欧米を歴訪してその成果を積極的に取り入れた、歌舞伎の一五代市村羽左衛門の活躍が目立った。美貌と長身、洒脱な芸風で絶大な人気を呼んでいたのである。

マツダ映画社提供

▲「カビリア」で、娘があやうくいけにえにされそうになった、カルタゴの神殿入り口。ここでもスペクタクル・シーンが展開された。

田中純一郎提供

▲「曽我十番斬」で活躍した沢村四郎五郎。

▶人気スター一五代市村羽左衛門の舞台姿。これは昭和初期のもの。

松竹提供

モノ語り'16

日本人の感覚にピッタリで流行！「レートポマード」「ナットボタン」「名古屋帯」

◀**レート・ブランドの化粧品が人気**　明治・大正から昭和初期にかけて有名化粧品会社だった平尾賛平商店（後のレート化粧品）から、この年「レートポマード」が発売された。特に日本人の髪に合うように開発されたもので、つやや香りのほか、つけ心地や洗髪した時の汚れ落ちのよさまで追求した商品だった。定価は大瓶が2円30銭、小瓶が1円60銭。ちなみにブランド名の〝レート〟は、フランス語で牛乳を表す言葉から生まれた。
平尾昌晃提供

▲**国産カメラが注目された**　小西本店（現・コニカ）が、蛇腹式のカメラ「リリー手提暗函2号」を製造、カメラの国産化時代が近いことを感じさせた。8.3×10.8センチの手札判のガラス乾板を使用。本体は木製で黒革張り。レンズやシャッターは外国製を使用。レンズ部分は上下、左右に移動させることができる、いわゆるアオリ機構つきだった。
日本カメラ博物館蔵／大畑俊男

▶**椰子の実を原料とした洒落たボタン**　日本人の洋装がまだ一般的でなかったこの時代に、輸入品として日本に登場していたボタンに、写真のような「ナットボタン」がある。南米・エクアドル産のタグワ椰子の実を原料としてドイツで生産され、おもに背広やコートなどの紳士服に使用された。日本では大正時代中頃までは、洋服の9割にこのナットボタンが使用されていた。ボタンの博物館蔵／渡辺充俊

◀**活動的な女性にふさわしい帯**　和服の帯を結びやすくした「名古屋帯」が、この頃、考案され大流行した。結びの部分だけを従来と同じ幅にし、ほかの部分を半分の幅に仕立てたもの。前が細いので締めやすく軽快で、女性が活動的になった時代にふさわしい帯として歓迎された。布地が少なくてすみ、経済的でもあった。
水島衣裳雑貨博物館蔵／山口隆司

▼**切手印刷技術も進歩していく**　この年「立太子礼記念切手」が発売されたが、凸版2色刷りで印刷された切手は、これが初めてだった。1銭5厘の切手で、大きさは30×27ミリ。
切手とお札の博物館蔵

▶**エックス線写真の撮影が行われていた**　理科教育機器の開発・製造で先駆的役割をはたしてきた島津製作所は、すでに「教育用エックス線装置」を開発、この頃には、写真のようなシンプルで使いやすい実験装置を製造していた。エックス線送出装置とスクリーンの間に手などをおき、スクリーンの向こう側（写真右側）から見ると、透けて見えた。
島津創業記念資料館蔵／石井美雄

世紀末には撮影に成功していた

レントゲン博士がエックス線写真を発明したのは明治29年だが、それからわずか10ヵ月後に日本でも同じ装置を開発、エックス線写真撮影に成功している。大正期に製造され活用されていた教育用エックス線写真撮影装置も、その流れの中で作られ、用いられた。ただし、エックス線の被曝による人体への影響については、当時はまだ十分には知られていなかった。写真は、実験初期のエックス線写真である。

島津創業記念資料館提供

人物クローズアップ

吉野作造(三七)

大正デモクラシーの旗手が新理念「民本主義」を提唱!

◀大正デモクラシー運動のイデオローグとして知られる吉野作造は、政治学者と歴史家の二つの顔を持ち、民本主義を基礎づけたのはその歴史的必然性の論理である。

吉野作造(三七)が大正デモクラシーの指導理念となった「民本主義」を提唱した論文、「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」が、大正五年、「中央公論」一月号に掲載された。

明治維新政府によって推進された日本の近代化は、国際社会における日本の立場を、ある一定の水準に押し上げることに成功した反面、国内的には、藩閥政府と強力な官僚機構が国民の自由な政治参加への道をふさぎ、硬直した体制を作りあげていた。時代は明治から大正へと移り、従来の体制を崩すための運動として護憲運動が展開されていたが、その中で、新たな政治的・文化的体制を作るうえでの指導理念となったのが、吉野の提唱する「民本主義」である。

簡単に言うと、「民本主義」とは、大日本帝国憲法下における政治の運用論である。それは、非現実的な理想論をうたいあげたものではなく、主権が民衆でなく君主にある明治憲法下の社会の実態を踏まえて、国家機構の自由主義的改革を達成するための理念だった。

吉野作造は、明治一一年一月二九日、宮城県志田郡古川町(現・古川市)に生まれた。二五年、宮城県尋常中学校(現・仙台一高)に入学。三〇年に第二高等学校(現・東北大学)に無試験で入学し、三三年、二高を首席で卒業して東京帝大法科大学政治学科に入学、さらに同大学政治学科を首席で卒業した。

吉野の思想に大きな影響を与えたのは、キリスト教への入信だった。彼の肯定的人間観と、すべての人を同胞同類と見る視点は、キリスト教の信仰によってもたらされたものである。

明治三九年、吉野は清国の政治家・袁世凱の招きで天津に渡り、四二年までの三年間を同地で送った。四二年一月に帰国し、二月、東京帝大法科大学の助教授に就任。そして翌四三年、三年間の欧米への留学に旅立つ。

帰国後、東京帝大教授に就任。国内における吉野の本格的な活動が始まった。大正七年には、二年前の論文を修正した「民本主義の意義を説いて再び憲政有終の美を済すの途を論ず」を発表、時の寺内内閣が掲げた、政治の方法より結果を強調する「善政主義」を批判し、「民本主義」の基本理念を再び突きつけた。さらに、「民本主義」の具現化に向けた吉野の主張は枢密院と軍部にもおよび、両機関は政府が統制できない非立憲的機関であるとして、それを鋭く批判するとともにその改革案を提示したのである。

大正一三年に東京帝大教授を辞職。同年、石井研堂、尾佐竹猛、宮武外骨らとともに「明治文化研究会」を組織し、明治の歴史的資料の収集にあたってもいる。

大正デモクラシーの旗手として、吉野は後世にどのような課題を与えたか。政治学者の三谷太一郎氏はこう述べる。

「実質を持った複数政党制の確立と、脱植民地帝国化の完成ということではないでしょうか。この二つは、今なお日本の大きな課題になっています」

魅力的な人格と学問への情熱。吉野の影響は多方面におよんだが、昭和八年三月一八日、五五歳の若さで死去。しかし、その思想は今も新しさを失っていない。

◀「中央公論」、大正五年一月号。

中央公論社 吉野作造記念館提供

◀吉野作造が留学先のハイデルベルクから家族へあてたはがき。写真の上に絵の具で着色したもの。

吉野作造記念館提供

決定的瞬間

英軍が連日の報復的処刑！惨敗したイースター蜂起とアイルランド人の民族感情

バリケードの向こうから銃口を向けているのは、イギリス軍兵士だ。彼らは、ダブリン市を占拠した蜂起軍を鎮圧するために派遣されてきた。第一次世界大戦を戦っている最中のイギリスにとって、アイルランドのこの蜂起は裏切りであり、背後からナイフを突きつけられたように感じていた。

一九一六年四月二四日午前、蜂起軍（アイルランド義勇軍約一六〇〇人、市民軍二〇〇人）は市の中央郵便局に司令部をおき、駅、工場、救貧院、公園、橋、兵舎などに分散。各拠点を占領して、ダブリン市民の蜂起をうながした。「イギリスの危機はアイルランドの好機」であり、イギリスが大戦に敗北した時には、独立国として和平会議に出席する、というのが蜂起派指導者たちの考えであった。

同日午後、義勇軍を率いる詩人のパトリック・ヘンリー・ピアース（三六）は、中央郵便局の前で「主権を持った独立国家として、アイルランド共和国を宣言する」と独立宣言を読み上げた。

しかし、翌二五日からイギリス軍二万人が続々とダブリン市に押し寄せ、市街戦が始まった。市の中央を流れるリフィー川から侵入してきたイギリスの軍艦は、〝イギリスの財産を破壊しないだろう〟との蜂起軍の予想に反して、市の中心部に激しい砲撃をあびせてきた。そして何よりも反乱軍が期待したダブリン市民の暴動は、子どもたちが菓子屋と玩具屋を襲った程度で、空振りに終わってしまったのである。

市民の大半がこの蜂起に無関心であったのは、大戦中の軍需景気で経済が好況であったことと、終戦後にはアイルランドに「自治権の獲得」が約束されていたことが背景にある。このようにして、蜂起はわずか一週間たらずの四月二九日（土曜日）には敗北してしまった。被害は双方の死者約五〇〇人、負傷者約二五〇〇人だった。敗因は、市民の無関心に加えて、本来四月二三日（復活祭＝イースター）に予定されていた蜂起が、義勇軍内部の意見の不統一から一日延期され、現場が混乱したため参加しなかった兵士が多く出たこと。また、武器・弾薬をドイツから購入した船がイギリス軍に拿捕されてしまい、武器が不足していたことなどがあげられている。

イギリス軍は関係者の逮捕を急ぎ、指導者はただちに軍事裁判にかけられた。死刑を宣告されたものは九七人に達し、五月三日から一〇日までの間に一五人がダブリン市で処刑された。市民軍のリーダーで著名な社会主義者であるジェームズ・コノリー（四八）は、足を負傷して歩けなかったため、椅子に縛りつけられて銃殺されるありさまだった。このようなイギリス軍の報復的な処刑が連日続いたことは、アメリカからも厳しい批判を受けたが、何よりもアイルランド人の民族感情に火をつけ、処刑された人たちは、民族独立のために戦った〝殉教者〟へと変質していった。

イースター蜂起は「ダムにできた小さな割れ日」だと言われている。独立への闘いは、蜂起の精神を引き継ぐ急進派政治団体「シン・フェイン」によって継続され、イギリス軍や警察に対する爆弾闘争、テロ、暗殺が頻発した。一方イギリスは「ブラック・アンド・タン」という暴力団を派遣するなどして、逮捕者への拷問と死刑を繰り返し（一九一九～二一）、ついに一九二二年に妥協の産物である「アイルランド自由国」が成立。さらに経済戦争（一九三二～三八）を経て、ようやく一九四九年に「アイルランド共和国」が成立したのである。

▶蜂起軍と対峙するイギリス軍兵士。ダブリン市民の大半は突然のことに事態が把握できず、蜂起軍は市民の支持を得られないままあっけなく敗北した。

美の出会い

美術界の〝前衛〟第一号！ 弱冠一九歳の東郷青児 「二科展」に初出品で入賞

◀「パラソルをさせる女」大正5年。油彩、66.1×81.2センチ。東郷青児が、初出品で二科賞を受賞した出世作。 高山盛正／安田火災東郷青児美術館提供

▼19歳の東郷青児。東京・京橋の読売新聞社ビルで開かれた、第2回個展会場にて。 安田火災東郷青児美術館提供（二点とも）

大正五年一〇月一二日から東京・日本橋の三越呉服店新館で、第三回「二科展」が開催された。ここでの目玉は、東郷青児（一九）が初出品した「パラソルをさせる女」で、いきなり二科賞を受賞したのである。この作品はビーチ・パラソルの陰に水着の女を配置し、色彩を万華鏡のように交錯させて、構図を存分にデフォルメしたもので、未来派の影響を強く感じさせた。

絵画に関しては、日本はまだ写実全盛の時代である。ヨーロッパで美術を学んだ画家たちが、続々と帰国して新しい作風を紹介してはいたが、彼らの描くものは、ほとんどがモネやセザンヌ、ゴッホらの印象派や後期印象派の影響が強いものだった。その後のピカソの立体派（キュビスム）やマリネッティの未来派は一部で紹介されてはいたが、実際に手がける画家は皆無だった。そうした時代に登場した「パラソルをさせる女」は、日本の近代美術史上、記念碑的な〝前衛〟第一号であったと言えるだろう。

フランスから帰国後、ゴーギャンばりの絵を描き、多くの青年画家たちから支持されていた斎藤與里（三二）は、すぐさま「中央美術」一一月号に辛口の批評を掲載した。

「今回東郷青児氏の『パラソルをさせる女』など入れたのは少し遣り過ぎた処がある。会員を見渡した所で彼の絵に好意を持たれる人は居ないやうに思へる。して見ると殊更に二科の特徴を作るために入れたと云ふ様にも取れて面白くない」

さらに斎藤は、東郷の試みは失敗であり、未来派への理解が全然できていないとまで記している。しかし有島生馬（三三）ら二科会の創立会員たちは、東郷の才能と作品の前衛性を認め、二科展の最高賞を与えたのである。

◀「ピエロ」大正一五年。油彩、九〇・八×六三・四センチ。パリ留学時代、ピカソと出会った東郷は、大きな影響を受けるが、それから抜け出るのに苦悶した。その頃の作品である。

二科賞の賞金五〇円、さらに作品が二五円で売れて、合わせて七五円が東郷の懐に転がりこんだ。そば一杯が三銭の時代である。東郷は両親を連れ出して、父に純毛の二重回し（オーバーの一種）、母に着物と帯を買い、うなぎ屋の「神田川」で受賞を祝った。

東郷青児（本名・鉄春）は、明治三〇年、鹿児島に生まれ、五歳の時に一家で東京に移る。青山学院中等部の頃、雑誌にコマ絵を投稿したり、竹久夢二とその恋人・たまきが呉服橋に開いていた港屋にかよって版画制作にあたるなど活躍する一方、文学や音楽にも強い関心を寄せていた。

大正四年、知人のコントラバス奏者・原田潤の紹介で、ドイツから帰国したばかりの山田耕作（耕筰）を知る。若き東郷にとって、この山田との出会いは決定的だった。山田の好意により赤坂の東京フィルハーモニー研究所の一室をアトリエとして提供されたばかりか、山田を通してヨーロッパの美術界の動向をつぶさに教えられた。そして、その六月には山田のつてで、日比谷美術館で個展を開くことができた。キュビスムや未来派から学んだと思われる作品が並ぶ一風変わった個展は、大評判となった。特に有島武郎・生馬兄弟から注目されたことがきっかけとなり、二科展への出品をうながされたのである。

二科展に入賞後、東郷は有島生馬に師事し、後に作家になる佐藤春夫や多くの若い画家たちとの交流を深め、互いに刺激を与え合った。大正一〇年には、憧れのパリに留学。昭和三年に帰国するまでの八年間、エコール・ド・パリの人気画家・藤田嗣治やピカソらと交わりながら、自分の作風を模索していった。

第二次大戦後は、二科会のリーダーとして美術の大衆化に力を注ぐ。東郷の描く多くの女性像は、「工芸品」だとか「ペンキ絵」などと評され、評論家から無視されることもあったが、彼はまったく動じなかった。こうした東郷の態度を、鹿児島市立美術館の学芸員・谷口雄三氏は「確信犯」であるとして評価する。

「東郷青児は常に大衆との接点を大切にし、自閉してしまうことを嫌っていました。すさまじいほどの独学、それをまったく表に出さない人で、晩年には、もう自由に描いてもいいだろうと言っていました」

東郷は昭和五三年四月二五日、熊本県立美術館で開かれる第六二回「二科展」に行き、当地で急性心不全におちいり死去する。八〇歳だった。

20世紀博物館

日本の鬼の交流博物館

酒呑童子の伝説の地で"鬼"を通して世の中を見る

京都・大江町

桑原茂夫

▲壁面にそって時代順に並べられた鬼瓦。こんなにも多種多様な鬼瓦が、屋根の上で悪霊を追い払っていた！　石井美雄

丹波の大江山といえば、酒呑童子伝説で知られたところ。その山の中腹に「日本の鬼の交流博物館」がある。平安の頃、京の都に夜な夜なおりてきては良家の子女をさらっていくとおそれられた大江山の鬼・酒呑童子と、その拠点に入りこんでこれを討った源頼光の話は、絵物語や謡曲などの題材にもされてきた。

そのような伝説の地にふさわしく、森や渓谷など大自然に包まれた地域ということもあって、大江町は過疎化の波をかぶり、その対策としてこの町を特徴づける博物館を設立した。平成五年のことである。いざ開設してみると反響は大きく、全国各地から鬼伝説にまつわる仮面やら行事のデータはもとより、鬼ファンたちも集まり、今や日本列島における"鬼情報"の中核的存在となっている。

▲日本の鬼のコーナー。お祭りの時にヒーロー、あるいはアンチヒーローとして活躍してきた鬼たちがここに集まっている。

出雲の正月行事に登場する番内の鬼、国東の鬼まつりで悪魔を退散させる鬼、東北地方に伝わる鬼剣舞で舞う鬼、さらにはナマハゲや各地の節分の鬼など生活に密着した鬼はもちろん、酒呑童子のような伝説上の鬼たちも、鬼女・般若の類、そして鬼と並び称せられる妖怪として知られる天狗も、一堂に会している。

▼世界の鬼がつどうコーナーには、バリ島の「バロンとランダ」など、鬼と同じような意義を持つ妖怪たちの仮面が並んでいて壮観だ。

集まった鬼を見ていると、人々から厳しく拒絶される"鬼のようなヤツ"とは思えなくなってくる。むしろ親しみをこめて接してきた存在のようだ。中には、悪を退治する守り神のようにふるまってきた鬼もいる。館長の村上政市さんは、自然に対する畏怖の念が"鬼"を生んだのだと推測しており、そのような畏怖の念が失われつつある時代だからこそ"鬼"を通して世の中を見る必要があるのではないかと言う。

▲大江山中腹にある館の外観。角をはやした鬼をイメージして建てられた。すぐ脇には新たに作られた鬼のモニュメントもある。

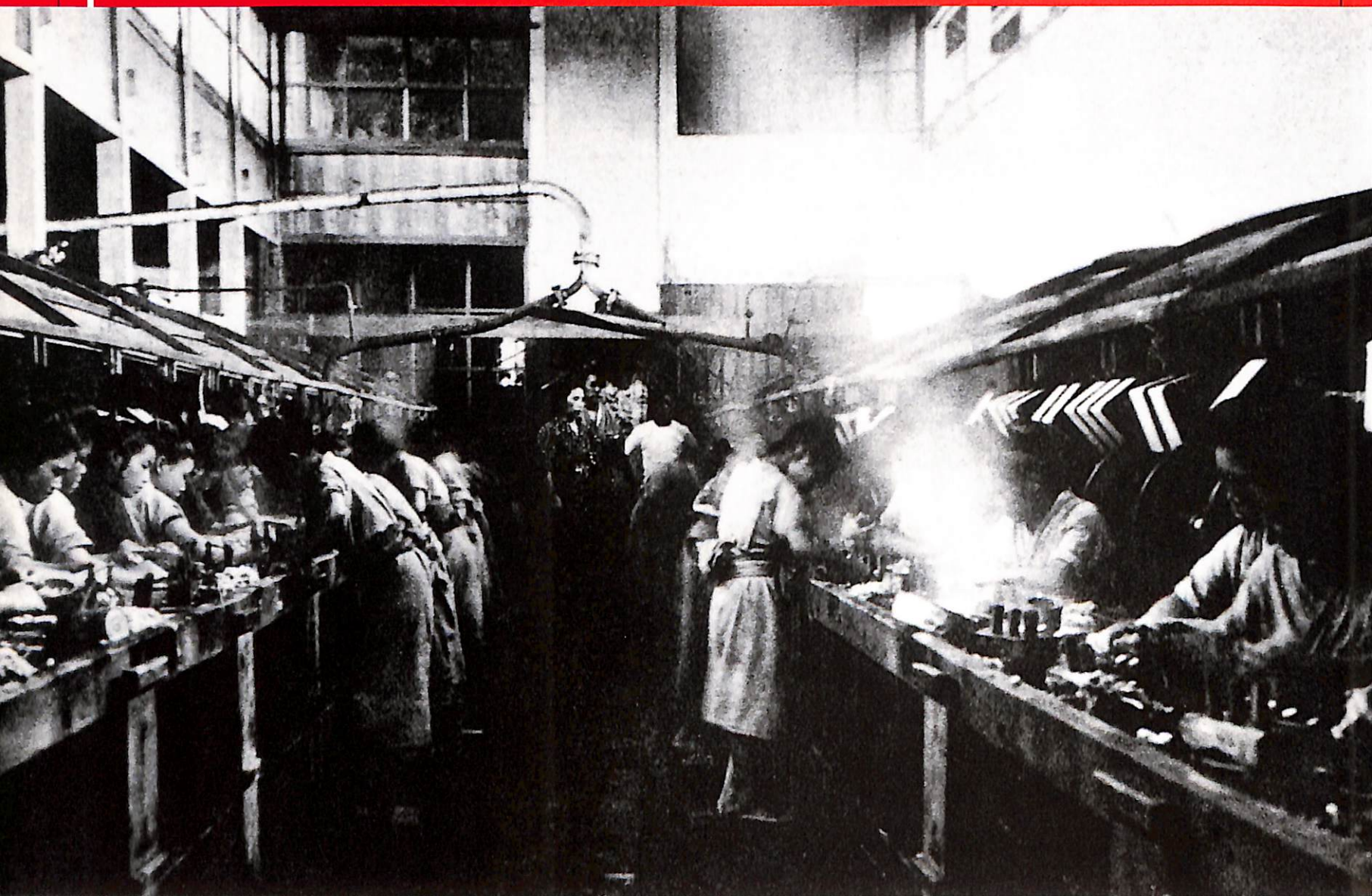
守り神的な役割を担った鬼として"鬼瓦"がずらりと並んでいるのも、この博物館の大きな特徴である。外部から侵入してくる目に見えない悪霊たちを退散させるのが、屋根の上の鬼たちであり、屋根の下に住む人たちから絶対的な信頼を得ていたわけである。

奈良・東大寺の鬼瓦をはじめ、和歌山県にある道成寺の鬼瓦、広島・厳島神社の鬼瓦から江戸時代のものまで、専門家による複製品が時代順に展示されており、ほかでは見られない充実した鬼瓦コーナーとなっている。

ところで、博物館開設の翌年に、ここを拠点に「世界鬼学会」が設立された。村上館長は「ジョークですよ」と謙遜していたが、どうして真面目なもので、会報や研究会などを通じて、鬼の研究発表や情報交換が行われている。その会則に「全世界の鬼に興味・関心を持つものが広く集い、古来、人類が鬼に託してきたユーモアとペーソスにふれながら、文化の深層を考え……」とある。そういえば、世界各地の鬼を集めたコーナーもあって、にぎやかである。まさしくここは鬼のすみかであり、鬼ファンにとって楽しみの多い場所でもある。

●日本の鬼の交流博物館
京都府加佐郡大江町字仏性寺九〇九
☎〇七七三―五六―一九九六
北近畿タンゴ鉄道宮福線大江駅からバスで二〇分、大江山の家前下車、徒歩一分
開館時間＝九時～一七時
休館日＝月曜日と祝日の翌日、年末年始
入館料＝一般三〇〇円

法案成立から5年後にしてようやく "大戦景気"の中で日本初の労働者保護法施行！

「工場法」の建て前とザル法ぶり

▲湯にひたしたマユから糸を引く作業。長時間の立ちずくめ労働と高湿度の職場環境が、健康をむしばんだ。伊勢崎の製糸工場で。　毎日新聞社

明治四四年の法案成立から五年後にして、日本最初の"労働者保護"法が施行された。しかし、その実体は「ザル法」にひとしかった。生産量を落としたくない業者団体の圧力は強く、労働時間の短縮はいっこうに進まず、深夜業が禁止されたのは昭和四年七月になってからである。

空前の経済的繁栄の陰で一日十五、六時間の労働

大正五年九月一日、ようやく「工場法」が施行された。この法律は、常時一五人以上雇用する会社および危険で有害とみなされる事業に適用され、その内容は、一二歳未満の就業を禁止し、一日一二時間労働、深夜作業の中止、毎月二日休日制（交替制の場合は四日）などの労働者保護と、災害扶助制度によって成り立っていた。

法律施行に際して、大工場と中小の工場では、反応の様相が大きく違っていた。

東京市内に大工場を持つ鐘淵紡績（現・鐘紡）の重役は、扶助制度について、「工務上で死亡した場合、賃金の一七〇日分以上の遺族扶助料を支給せよと言うが、私の会社では三三〇日以上払っている。病気になった時の扶助料も万全だ」と余裕を見せる。一方、本所や押上周辺の工場主は、「死亡した職工一人につき一日一円の扶助料を支払ったら、一時に一七〇円の支払いにもなり、とてもやってゆけない」（「時事新報」八月二一日）という具合であった。

法律では、精神病や肺結核などの疾病にかかっている人を解雇することができ

▲明治三九年一一月三日、鹿児島県出身の少女たちが、尼崎紡績に入社した際の貴重な記念写真。日給一四銭で、うち七銭は食費にあてられた。 ユニチカ記念館提供

醫學士 石原修著
衛生學上ヨリ見タル
女工之現況
國家醫學會發行

▲石原修博士は、紡績女工の労働実態について大正2年、国家医学会で講演。工場法施行促進の機運を作るのに貢献した。

るとあったため、それにまつわる悲劇も起こった。東京・小石川のある印刷工場では、肺を患っていると診断された職工二〇人が突然解雇され、法の犠牲になったのだ。工場法の施行により、これまでの長時間労働から解放されると喜んでいた矢先のことであった。

一方、この法は一二歳以下の幼年職工が多く働くガラスやマッチ製造業への影響が大きく、彼らの解雇が取りざたされた。しかし施行後の職業紹介所には異変は見られなかった。まさに法の力より、生活する力の方が大きかったのである。

この年、日本は、大正三年に始まった第一次世界大戦による戦争景気に沸き、生糸や綿織物などの輸出が拡大し、化学、金属、機械などの工業生産も飛躍的に発展した。大戦期間中、主要工業部門の生産額は五倍、貿易額は約四倍に増加し、工場労働者の数も、明治四二年の約八〇万人から大正二年には八五万人余、大正八年には一八一万人余と著しい増加を見せていた。

一方、こうした空前の経済的繁栄の陰で、労働時間の延長、労働強化、実質賃金の低下が続いていた。とりわけ、外貨獲得の最前線にあった紡績工場などで働く女性たちの労働環境は、劣悪であった。女子工員の契約は普通一年、その多くは貧しい農村からの出稼ぎで、約七割が二〇歳未満であった。高温多湿の職場環境の中で一日十五、六時間の労働を強いられ、その間わずか二〇分ほどの休憩しか与えられないところも多かった。そのため健康がむしばまれ、六~七人に一人が結核を患うという惨状を呈していたのである。

しかも、当時は労働運動にとってはまさに「冬の時代」。労働者は明治……

年に成立した治安警察法一七条によって、団結権や争議権が奪われていたが、大正五年八月に横浜船渠、翌六年一月には東京の池貝鉄工所で争議が起こるなど、労働者の不満は高まる一方だった。

紡績業者の猛反対で施行が大幅に遅れる

工場法は、その施行までにさまざまな紆余曲折があった。最初に法案が作成されたのは明治三一年九月、提案理由書が添付され、内務省の関係当局などに諮問された。そしてその後、修正が加えられ、明治四三年の第二六帝国議会に提出されたが、議会の猛烈な反対にあった。特に、深夜作業の禁止に対する非難が強かった。また綿糸紡績業者の反対は激烈で、法案全体を葬り去ろうとする勢いであったため、政府はやむなく法案を撤回する。

だが、政府はあきらめなかった。そこに、当時の農商務省参事官工務局長・岡実が法律制定の責任者として登場したのである。岡は法案不成立の原因だった「徹夜作業の禁止」条項を、削除することはしなかった。業者団体との妥協をはかりながら、徹夜作業の一部禁止から全面禁止へ導くために、各方面に意見を求めたのである。

しかし、工場法の施行にはまだ苦難が待ち構えていた。施行に必要な費用を大蔵省が認めないため、施行規則が打ち出せなかったからだ。やっと予算がついたのがこの年、大正五年一月、施行令および施行規則が八月三日に公布され、九月一日から施行されたのである。

工場法の背景には何があったのか。

「それは、明治時代の進歩的な官僚たちの人道主義から出てきたことはたしかですが、軍部の圧力もありました。年少労働者の酷使は、強い兵隊を作る障害になっていたからです。またヨーロッパの現状を分析し、労働者の圧迫は逆に社会不安を引き起こすという教訓も踏まえていました。しかし、これまで経営者側の裁量にゆだねられていた労働条件などを、政府が介入することで大幅に制限したことは画期的なことで、後の労働者保護に関する諸立法の原点だったと言えます」

こう語るのは中央大学名誉教授の横井芳弘氏である。

しかし当時、法学博士の堀江帰一が「勅令や命令で自由にその適用を伸縮できる悪法」と指摘したように、法の規制基準はきわめて低く、しかも、期限つきながら、紡績業には昼夜二交替制が、製糸業には一四時間の労働が認められていた。

そして、大正八年、ワシントンでの第一回国際労働会議（ILO）で、女子と年少工の深夜業禁止が決議されたにもかかわらず、この会議に資本家代表として出席した鐘淵紡績の武藤山治専務取締役は、「深夜業禁止となれば、日本の基幹産業である紡績業は大打撃を受ける」とこの決議に反対し、日本では昼夜二交替制などを認める例外規定は存続する。

ようやく、この適用除外規定だった深夜業禁止が実現したのは、大正一二年の改正を経て、昭和四年七月一日になってからのことである。

▲紡績工場の大正7~9年度「帰国工女姓名簿」。「肺病」「病気死去」などの帰郷理由があげられているが、断然多いのは「逃走」である。 『長野県民100年史』／郷土出版社

▲大正末年、芝・増上寺前で、女工100人が深夜業禁止署名運動を展開した。 毎日新聞社

フォト＋日録で再現する366日

▲中国、国会再開(8月1日)3年ぶり衆参両院議員が参集。黎元洪(52)が大総統席についた。翌年、黎は国務総理・段祺瑞と衝突、平和はつかの間だった。

「写真タイムス」

◀前島密像を建立(7月1日)日本の郵便制度創設者の立像除幕式が、大隈首相らが出席し逓信省前庭で行われた。設計・伊東忠太。

「写真タイムス」

▶本多光太郎(46)ら学士院賞受賞(7月2日)後のKS磁石鋼発明にいたる「鉄の研究」が対象。写真、前列左から3人目。後列右から3人目はワイル病病原体発見の稲田龍吉(42)。

「写真通信」

「写真通信」

▲日露協約が成立(7月3日)秘密協定で、中国への第三国進出阻止のため、相互軍事援助を約束。20日、政財界は貿易拡大を期待し大饗宴、祝賀の人出は30万人。写真は東京の提灯行列。

▼荒川が大洪水(7月31日)月末に関東を襲った台風で、各地の河川が氾濫。東京の北部一帯は床下浸水が続出、泥海と化した。写真は、不気味な増水のため通行止めとなった千住大橋。

「写真通信」

▲渋沢栄一が隠退宣言(7月25日)第一国立銀行の創設以降、五百余の会社を起こした「日本資本主義の最高指導者」が、健康を理由に実業界に別れを告げた。76歳。左は夫人。

「写真タイムス」

大正5年 7月

1(土)●米・ユニヴァーサル社、外国映画社で初めて日本支社を開設し業務開始。米国製活劇を配給。
●仏のソンムで英・仏軍、独軍に総攻撃開始(～11月3日、両軍の死傷者一二五万人)。

2(日)●稲田龍吉、本多光太郎ら学士院賞を受賞。

3(月)●日露協約調印。中国での相互軍事援助を規定。

4(火)●鳥取・境―東京・汐留間の鮮魚輸送試験実施(7日、汐留駅到着、約六一時間で結果良好)。

5(水)●群馬県下の雷雨で河川氾濫、溺死・不明一四人。

6(木)●大隈重信首相、寺内正毅朝鮮総督に加藤高明同志会総裁との連立内閣を提議(寺内が拒否)。

7(金)●播磨造船所、大型新鋭貨物船「吉備丸」竣工。

8(土)●市村羽左衛門、東京の歌舞伎座公演中に急性腸カタルで卒倒(14日まで公演休止)。

9(日)●干ばつ下の大阪・京都の農民五〇〇人、琵琶湖の放水制限に反対して内務省出張所に抗議。

10(月)●簡易生命保険法公布。保険金二〇～二五〇円、無診査、月掛けの戸別集金(10月1日施行)。

11(火)●警視庁、井戸枯渇で神田の製氷場に停止命令。

12(水)●陸軍自動車隊、東京―京都間行軍訓練に出発。

13(木)●東京帝大で、電気による煤煙除去実験を実施。

14(金)●日独戦争に関し、大臣・軍人・議員などに論功行賞(約二二万人にのぼり、賞乱発が問題化)。

15(土)●三菱神戸造船所の労働者、待遇改善求めスト。

16(日)●早大渡米野球団が帰国(米本土で六勝一四敗)。

17(月)●黒田チカら二人、東北帝大で初の女性学士に。

18(火)●習志野俘虜収容所で待遇めぐり、独軍俘虜が巡回中の軍医に暴行、軍医は一ヵ月の重傷。

19(水)●急設電話希望は予定の五倍、一万八千余台。

20(木)●大妻技芸伝習所(現・大妻女子大)が開所。

21(金)●東京市内、発電所への落雷で電車停止が続出。

22(土)●政府、英戦費公債一〇〇〇万ポンド引き受け発表。

23(日)●浅野セメント、生産満杯で三ヵ月受注停止。

24(月)●米国、西インド諸島の三島買収契約が成立。

25(火)●前年の農家五四二万戸のうち自作農は四三％、過去七年間増加の一途と農商務省調査。

26(水)●警視庁、闘犬・闘鶏・闘牛取締規則公布。

27(木)●横浜入港の「ハワイ丸」乗客にコレラ発生(以後、全国に広がり七四八二人死亡)。

28(金)●大阪・曽根崎署、私娼百余人を取り調べ。

29(土)●基督教女子青年会、写真結婚による呼び寄せ婦人に、米国生活の実地教育実施を決定。

30(日)●女性文芸誌「ビアトリス」創刊。

31(月)●前日から関東に台風、千葉県で一一人死亡。

証言・あの日この日
秋田雨雀(33)

12月10日(日)〈お婆さんは泣いていた。お婆さんのあったときは去年であった。子供の死んだとき、十円夏目さんからお婆さんあてに送られたことがあった。あれが夏目さんとぼくの家との最後の交渉であった。もういっぺんあっておけばよかった〉(秋田雨雀『秋田雨雀日記』)

12月9日、夏目漱石が死んだ。秋田雨雀はこの日、弔問に行き、納棺を終えてから帰宅した。雨雀が「お婆さん」と言うのは雨雀夫人の養母であるが、実はこの女性は漱石の『道草』に「お常」として登場する女性で、漱石を9歳まで育てた養母(塩原昌之助夫人)でもあった。夫の女性問題から離婚し家を出たため、漱石とは離れ離れになったが、交流はひそかに続いていた。12日の葬儀の日の日記に、雨雀は〈あの人は作家としてよりも人間として人望をもっていた〉と書いている。(山崎行太郎)

「写真タイムス」

▲陸軍首脳が、鮎漁(8月6日)首都近郊の多摩川に集合。左から上原勇作(59)、田中義一(52)、一人おいて宇垣一成(47)。念願の2個師団増設をはたした参謀本部の実力者たちだった。

▼慶応普通部、優勝(8月20日)大阪・豊中運動場の全国中学校野球大会決勝戦で、地元の市岡中と対戦、6対2で打ち勝った。写真は22日、優勝旗をたずさえて東京駅に凱旋した慶応ナイン。

「写真タイムス」

Popperfoto/ユニフォト・プレス

▲ヒンデンブルク(69)、参謀総長就任(8月29日)大戦の東部戦線を指揮、連勝したドイツ国民の英雄が、参謀次長・ルーデンドルフとともに中央入り。最高軍司令部を再編、総力戦態勢を強化させた。

「写真通信」

▲函館で大火(8月2日)午後4時頃、旭町の白玉粉製造所から出火。烈風にあおられて、火は汐止町・真砂町などの大半をなめた。さらに中心街の地蔵町などに延焼、消防は手のほどこしようがなく、1800戸が焼失する大惨事となった。

◀羽田に日本飛行学校が創立(8月)民間飛行家・玉井清太郎らが、後の羽田空港となる約30万坪の飛行場を付設し、翌年1月に開校。月謝50円、3ヵ月で卒業。写真は、丸太の骨組みによしず張りの格納庫。

大正5年 8月

1(火)●中国復活国会、議員六百余人出席し開院式。

2(水)●函館で大火、一八〇〇戸焼失。

3(木)●警視庁、浅草で浮浪少年取締り、五〇人検挙。

4(金)●政友会、官設鉄道の広軌改築反対を決議。

5(土)●生糸検査所設置二〇周年祝賀会、横浜で開催。

6(日)●豪政府、米国製排日映画の国内上映を禁止。

7(月)●民間飛行家・高左右、中国革命軍支援で大阪を出発。飛行機は助手とともに青島に発送。

8(火)●特別用塩規則公布。工業用塩は特別価格に。

9(水)●日銀、一円札の意匠変更。アラビア数字採用。

10(木)●農商務省、稲作の病虫害多発で注意呼びかけ。

11(金)●横浜船渠の旋盤仕上工二三〇人、従業員解雇に抗議し争議(16日、友愛会の調停で解決)。

12(土)●東京・日比谷公園に「淫行男女」増加と新聞に。

13(日)●中国・鄭家屯に駐在する日本軍が中国軍と衝突、日本軍一六人死亡(鄭家屯事件)。

14(月)●御大典記念タバコ「八千代」の売れ行き不振、人気は「敷島」「バット」「朝日」の順と新聞に。

15(火)●農商務省、全国六ヵ所に森林測候所新設決定。

16(水)●米とカナダ、初の国際渡り鳥保護条約調印。

17(木)●神奈川県、コレラ予防のため本牧町海岸などでの出漁・遊泳を禁止(26日東京、千葉も)。

18(金)●経済調査会、重要輸出品の品質一定化を決議。

19(土)●秋に向けた女性の流行はすべて派手になり、花柳界の方が渋さを増している、と新聞に。

20(日)●中等野球大会、慶応普通部が市岡中破り優勝。

21(月)●鹿児島県下に台風。約二〇〇〇戸全半壊。

22(火)●日本式速記考案者・田鎖綱紀、速記普及とエスペラント語研究のため欧州視察に出発。

23(水)●網走監獄で囚人五人が看守二人を殺害し逃走。

24(木)●インド政府、日本工業視察のため商人ら派遣。

25(金)●米議会、国立公園局を内務省に設置する法案可決。一三国立公園の保護・整備・管理を強化。

26(土)●西尾末広ら、職工組合期成同志会を大阪で結成。非知識階級による組合活動をめざす。

27(日)●ルーマニア、オーストリア・ハンガリーに宣戦布告(28日、独がルーマニアに宣戦布告)。

28(月)●大分市の花火製造所で爆発事故。五人死亡。

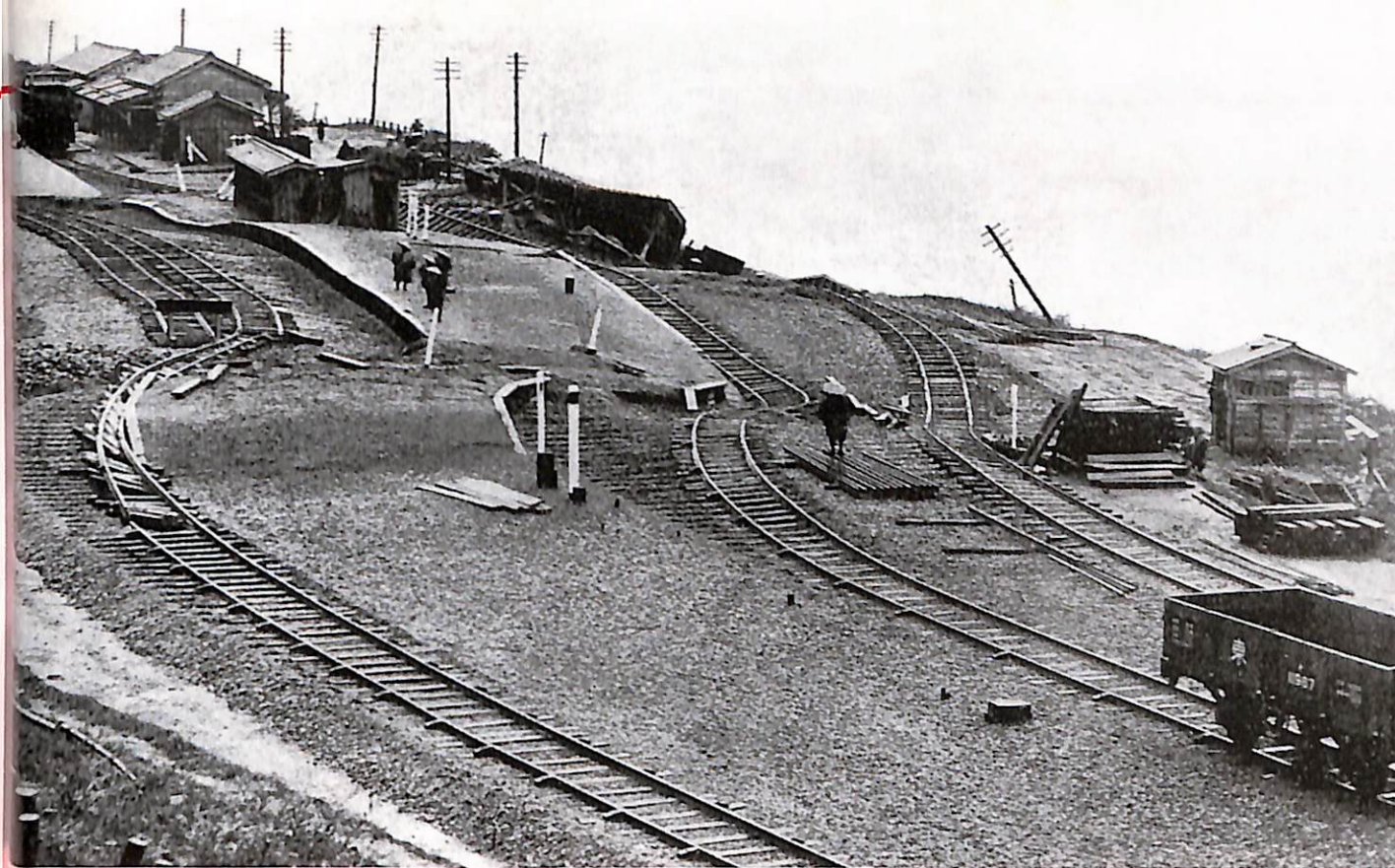
29(火)●独陸軍参謀総長にヒンデンブルク、参謀次長にルーデンドルフ就任。総力戦態勢を確立。

30(水)●前政友会代議士・長晴登の葬儀に、議員で初めて第一師団の儀仗兵が付される。

31(木)●日本赤十字社派遣の従軍看護婦二〇人、仏での活動を終え日本に向け出国(9月13日帰国)。

「写真タイムス」

▲純国産エンジン競作（9月13日）飛行機国産化を期し、帝国飛行協会が企画。22人の応募者中、発動機開発家・島津楢蔵（写真）のエンジンが、1等となり賞金1万円を獲得した。

「写真通信」

▲北陸本線の筒石駅舎が地滑り（9月26日）深夜、突然、轟音とともにホームが崩壊、線路とともに12メートルも海側に流された。死傷者はなく、能生－金沢、名立－新潟間を折り返し運転、4日後に復旧した。

「写真タイムス」

▲東京にコレラ大流行（9月）7月にマニラからの入港船に、コレラ患者を発見。この月は、251人が死亡するピークとなった。写真は東京・神楽坂での予防注射。

「写真タイムス」

▲東京銀行集会所が落成（9月25日）東京に大正期の代表的な、煉瓦造り3層のルネサンス式建物が登場。2階大広間には創業者・渋沢栄一の肖像が飾られた。

◀大浦内相事件の控訴審開始（9月19日）2個師団増設をめぐる瀆職事件の控訴審に、一審で有罪となった白川・増田・板倉代議士らが出廷。結局、控訴は棄却された。

「写真タイムス」

▲軽井沢宣教師殺害事件の犯人護送（9月23日）7月に、東京・本郷の中央会堂宣教師の別荘に強盗に押し入り、夫妻を短刀で惨殺。犯人（左から二人目）は川崎で逮捕された。

大正5年9月

1（金）●工場法施行（明治44年公布）。児童の雇用禁止、婦人の就業時間制限などを規定。

2（土）●極東大会予選会、東京・芝浦競技場で開催。

3（日）●吉林省でモンゴル・日本軍が中国軍と衝突。

4（月）●東京市教育課、市立小学校校長に大学教授の学術講演聴講を義務づける。

5（火）●横浜正金銀行、シンガポール出張所開設。

6（水）●東京の本郷座、椅子席に改造し一日二回公演。

7（木）●米国で労働者災害補償法成立。公務員が対象。

8（金）●無条件で受験できる最後の医師開業学科試験始まる（翌年からは医学校卒業者のみ）。

9（土）●京都帝大文科に考古学講座設置。

10（日）●村井銀行から五〇〇〇円横領した二五歳の行員を、熱海で芸妓七人と豪遊中に検挙。

11（月）●京都帝大教授・河上肇、「貧乏物語」を「大阪朝日新聞」に連載開始（～12月26日）。

12（火）●閣議、東京帝大に航空研究所設立を決定。

13（水）●新潮社、月刊「トルストイ研究」を創刊。

●船舶の売却契約続き日本は輸出国にと新聞に。

14（木）●米価調節調査会、台湾米の外国輸出奨励など農業政策八項目を、河野広中農商務相に答申。

15（金）●英軍、対独ソンム戦線にタンクを世界初投入。

16（土）●大日本麦酒、青島の英・独ビール工場を買収（12月25日醸造開始）。

17（日）●新駐米大使・佐藤愛麿、米国に向け横浜出発。

18（月）●警視庁、「ジゴマ」名乗る自転車窃盗団を検挙。

19（火）●秋向けのソフト帽最上一五円、鳥打帽最上四円、流行と価格は変わらず茶色一色、と新聞に。

20（水）●華族世襲財産法改正公布。制限の一部緩和。

21（木）●経済調査会、綿花・羊毛の生産奨励を決議。

22（金）●奥羽六県、連合共進会を山形市で開催。

23（土）●東京・三河島の日本家畜葬儀場で家畜追悼会、約三〇〇人が集まり愛犬・愛猫を供養。

24（日）●海軍、陸奥湾で特別検閲演習を実施。日本初の空母「若宮丸」ともない航空隊初参加。

25（月）●東京銀行、集会所の新築落成式を挙行。

26（火）●横浜の極東唯一の独銀行、独亜銀行破産。

27（水）●大隈首相、内大臣・大山巌を訪問し後継首相候補・加藤高明への支援を要請（大山、拒否）。

28（木）●独首相、陸軍要求の兵役年齢の一六歳まで引き下げを、労働力が不足するとして拒否。

29（金）●日立鉱山、大気観測用気球を開発、と新聞に。

30（土）●米大リーグ、ニューヨーク・ジャイアンツの二六連勝（過去最高連勝記録）がストップ。

「写真通信」

▲東京を行くドイツ人捕虜（10月22日）福岡収容所が陸軍大演習のため、捕虜を各地に分散した。千葉県習志野には69人が移された。写真は東京駅に到着、憲兵24人に引率され、沿道の市民が多数見守る中、両国駅まで歩く捕虜たち。

「写真タイムス」

▲乃木家再興問題が決着（9月17日）旧藩主の弟・毛利元智と、大将の妹らが起こした相続問題が解決。写真は24日、譲渡された乃木家の神霊・家宝をたずさえ、故郷・長府へ帰る改姓した乃木元智。

▲ローシーの「オペラコミック」旗揚げ（10月1日）イタリア人演出家が東京・赤坂にローヤル館を開館し、喜歌劇「天国と地獄」を上演。ここで原信子、田谷力三らが育ち、浅草オペラの基点になった。

「写真通信」

◀寺内「超然内閣」成立（10月9日）第2次大隈内閣総辞職を受け、元老・山県が寺内正毅(64)を指名。閣僚は全員が官僚出身で、政党とは無関係だった。前列右から陸相・大島健一、内相・後藤新平、首相兼外相・寺内。

▶初の国産潜水艦が完成（10月31日）ドイツのUボートの活躍に刺激され、海軍が英国製に手を加え呉工廠で製造。水中動力は電池。定員30人。後に「波7号」として20年間活躍した。

▲転機の有島武郎（10月）妻に死なれたこの年から創作に専念。写真右から二人目が有島(38)。武者小路実篤の「新しき村」を意識した北海道「狩太農場」で。

大正5年10月

1（日）●伊人・ローシー、オペラコミック一座結成し、東京・赤坂のローヤル館で「天国と地獄」上演。

2（月）●ハワイ住友銀行開業。

3（火）●火薬原料の硫黄輸出が前年の三倍増と農商省。

4（水）●大隈首相、辞表提出（5日、総辞職）。

●元老会議推薦の寺内正毅に組閣の大命降下。

5（木）●都下の記者五十余人、元老政治・閥族内閣反対を決議（12日、全国記者大会開催）。

6（金）●渋沢栄一、帝国ホテルで実業界引退披露宴。

7（土）●米国大学フットボール試合、ジョージア工大がカンバーランド大に二二二対零の大差勝利。

8（日）●「大阪毎日新聞」、婦人の社会見学者を募集。

9（月）●寺内正毅内閣成立。閥族・官僚内閣。

10（火）●立憲同志会・中正会・公友倶楽部が合同し憲政会を組織。総裁・加藤高明。

11（水）●添田唖蝉坊、自由倶楽部結成。社会問題を宣伝。

12（木）●四日市でペスト発生、この日までに五人死亡。

13（金）●熊岡美彦の文展入選作「裸体」が警察の勧告で落選作に替えられ、別室に特別展示。

14（土）●新潟などで石油技師不足し奪い合いと新聞に。

15（日）●大阪の漢学塾・懐徳堂再建し開堂式挙行。

16（月）●米のサンガー女史、初の産児制限医院を開院。

17（火）●伊が購入の掃海用トロール船六隻、下関出港。

18（水）●露の黒龍鉄道（現・シベリア鉄道）が全通。

19（木）●政府、日露戦争時発行の英貨公債償還のため、二〇〇〇万円の債券発行を決定（27日実施）。

20（金）●米国議会、飛行機三七五機製造を承認。

21（土）●大阪府の飛田遊廓地指定に反対し、大阪婦人矯風会員らが府庁へデモ（初の母親デモ）。

22（日）●上村松園、菊池契月、北村西望ら文展特選。

23（月）●結核罹患率は印刷工の二五％が最高と新聞に。

24（火）●警視庁、立太子礼で二階からの拝観厳禁、山車・神輿は不許可など五項目の注意発表。

25（水）●大阪朝日新聞社の新社屋が落成。

26（木）●東京・大阪株式取引所、買い手殺到し諸株一斉に新高値。立会時間新記録（27日臨時休会）。

27（金）●第一回全日本東西対抗陸上競技大会、阪神・鳴尾競馬場で開催（競馬場内に競技場新設）。

28（土）●豪で強制徴兵めぐり国民投票。否決される。

29（日）●一日施行の簡易生命保険が人気、二七日までの全国の加入者は六万人突破、と新聞に。

30（月）●京王電気軌道（現・京王帝都電鉄）、新宿－府中間が全通。

31（火）●呉海軍工廠で潜水艦（後の「波七号」）竣工。

▶福岡で陸軍が大演習(11月3日)大正天皇統監のもと、筑豊の野で東西両軍が戦闘を展開、初めて所沢から飛行大隊16機が参加した。天皇に随行した大山巌元帥は帰途発病、最後の大演習陪観となった。写真は、福岡市上空を飛ぶ軍用機。

◀東宮裕仁、立太子礼(11月3日)宮中賢所で大正天皇が壺切の剣を親授、公式に皇太子になった。15歳。高輪から宮城への道は、祝賀の市民で沸き返った。

毎日新聞社

ARCHIVE PHOTOS

◀米大統領にウィルソン(59)再選(11月7日)共和党のヒューズを277対254票の僅差で破った。大戦に米軍を参戦させ、戦後、国際連盟案を提示。ノーベル平和賞を受賞した。

▶東北本線で列車が正面衝突(11月29日)青森県古間木(三沢)駅員が、入営する兵士を乗せた臨時列車のことを忘れたため、貨物列車が同じ線を全速力で走行、大事故に。死者36人、重軽傷133人。

「写真通信」

▶松園ら御前揮毫(11月10日)文展に皇后が行啓、上村松園(41)、池田蕉園(30)、川合玉堂(42)らが御前で腕を振るった。写真右から池田、上村。

「写真タイムス」

▶巨艦「伊勢」進水(11月12日)東伏見中将宮臨席のもと、神戸川崎造船所で祝典。海軍史上初の3万1260トンの戦艦が誕生した。後に太平洋戦争に出撃、昭和20年、米航空機の爆撃を受け大破、戦後解体された。

「写真通信」

大正5年11月

1(水)●東京で第一回漫画展、美術としての漫画強調。
2(木)●大阪市立工業研究所、開設。
3(金)●裕仁親王、立太子礼。皇太子となる。
4(土)●神奈川県、第一回工芸図案展覧会を開催。
5(日)●独とオーストリア、旧露領ポーランドの王国再興を宣言。ポーランド人を独軍に編入。
6(月)●帝室制度審議会設置。帝室の改革を審議。
7(火)●ウィルソン、米大統領に再選される。
8(水)●ペトログラードで労働者一三万人が反戦スト。
9(木)●無政府主義者・大杉栄、三角関係から婦人記者・神近市子に刺される(葉山日蔭茶屋事件)。
10(金)●大日本医師会創立(会長・北里柴三郎)。
11(土)●名古屋兵器製造所、開所。
12(日)●戦艦「伊勢」、神戸川崎造船所で進水式。
13(月)●在米日本人労働組合六団体、連合会を結成。
14(火)●頭山満、犬養毅ら「日支協会」を創立。
15(水)●好況のため五〇銭以下の補助硬貨払底に対し、発行計画を変更し近く増鋳と大蔵省。
16(木)●逓信省、船橋無線局とハワイ・カフク無線局間で日米無線電話業務を開始。
17(金)●東鉄、京浜間で電気暖房設置の二等車を運行。
18(土)●石油四社、灯油の値上げ発表。前年来値上げ続き、各地でランプから電灯への転換相次ぐ。
19(日)●「チャップリンの拳闘」、浅草・電気館で封切。
20(月)●台湾銀行、銀行初の信託預金の取り扱い開始。
21(火)●東京控訴院、大隈前首相爆殺未遂事件で、福田らに地裁の無期判決を懲役一五年に減刑。
22(水)●浅野セメント深川工場の降灰問題で住民と会社が妥協。一年後に工場移転。
23(木)●東京・中野に救世軍結核療養所が開院。
24(金)●米国とメキシコ、米軍撤退など議定書に調印。
25(土)●横浜牛肉商組合、コレラ騒動の魚離れで原価暴騰のため一割五分以上の値上げを決議。
26(日)●陸軍航空隊の将校ら十数人、欧州戦での飛行機の活動視察のため東京駅出発。
27(月)●大審院、石川県衆院議員選挙訴訟で、当局の選挙干渉認め当選無効の判決(12月、再選挙)。
28(火)●独軍機一機が初のロンドン空襲。四人負傷。
29(水)●東北本線、下田―古間木(三沢)間で列車同士衝突。入営兵士三六人死亡、重軽傷一三三人。
●英政府発行の円国庫債券一億円を日本の銀行団が引き受け契約調印。日本が初の債権国に。
30(木)●貨物船「永田丸」、英仏海峡で独潜水艦に撃沈され、乗員九人死傷(12月「多喜丸」も)。

▲大隈夫人の銅像が建立中止(12月)早大内に夫婦の銅像が並ぶはずが、若手教授らが公私混同と猛反発。天野学長らは、朝倉文夫作の原型(写真)までできての決断だった。

▼大山巌、国葬(12月17日)胆嚢炎で東京・千駄ケ谷の自宅で療養中だったが、10日永眠。74歳。日露戦争では陸軍を指揮した。写真は葬場の日比谷公園に向かう元帥の柩。

▼浅野造船所が誕生(12月)「セメント王」浅野総一郎が4月、川崎・鶴見に設立した横浜造船所を改称。海運・造船の好況下、業績を伸ばし、設立時の資本金375万円を2年後には3倍にした。

▲夏目漱石が死去(12月9日)「こゝろ」などで、近代的自我を鋭く描いた日本文学の巨星が、胃腸病を悪化させ、東京・千駄木の自邸で死去。49歳。「東京朝日新聞」連載の「明暗」が絶筆となった。

「写真通信」

▲英国新首相にロイド・ジョージ(12月7日)対独戦へのアスキス内閣の弱腰を非難して陸相を辞任、国民の人気を背に挙国一致内閣を組織した。写真右が新首相(53)。

「写真通信」

◀大阪朝日新聞社が披露式(11月22日)事業の発展を期し、大阪・中之島に鉄筋コンクリート4階建て新社屋を完成、披露式を行った。設計は日比忠彦ら。

大正5年12月

1(金)●陸軍、第二航空大隊を岐阜県各務原に新設。
2(土)●日本植物病理学会、設立。
3(日)●福岡県若松で定員を超えて蛭子祭参詣人を乗せた渡海船が、運転誤り沈没。一三〇人死亡。
4(月)●政府の内命で日本興業・朝鮮・台湾銀行が中国借款団結成(翌年、西原借款を開始)。
5(火)●独議会、祖国防衛奉仕法を可決。一七~六〇歳の全男子を軍需生産に動員。
6(水)●郊外への引越しふえ九割は月給取りと新聞に。
7(木)●英、ロイド・ジョージ挙国一致内閣成立。
8(金)●海軍省、三菱に飛行機用エンジンを貸与。
9(土)●夏目漱石、東京の自宅で死去、四九歳。
10(日)●「報知新聞」、内閣批判の社説で発禁処分(主筆ら二人が禁固三ヵ月。元老の宮中闖入事件)。
11(月)●新聞一四社、用紙高騰のため値上げと発表。
12(火)●独、連合国に講和を提議(30日、連合国側は独の策略として拒否、戦争継続を声明)。
13(水)●独の講和提議に株式相場大暴落。東京・大阪両取引所は一七日まで立会停止を決定。
14(木)●米国から日本染料㈱の技術顧問技師団が来日。
15(金)●日銀、新五円紙幣発行。製造コストを削減。
16(土)●長与又郎、夏目漱石の解剖結果を学会で講演。
17(日)●元帥・大山巌の国葬、東京・日比谷で挙行。
18(月)●逓信省、敵国人に対する郵便取り扱いを停止。
19(火)●株式取引所、再開二日目で一斉暴落し休会。
20(水)●米穀市場、株式暴落を受け年内最安値を記録。
21(木)●神戸市に神戸鋳鉄所創立。可鍛鋳鉄を製造。
22(金)●長野県上水内郡に新設の百瀬橋渡り初め式で橋が崩落、三十余人が川に転落し二人即死。
23(土)●日銀、株式市場救済の融資決定(26日実施)。
24(日)●全国法学生大会、高文試験の早期改革を決議。
25(月)●大阪商船重役会、空前の増益で配当三割と決定(高配当と増資を決める会社相次ぐ)。
26(火)●帝劇で英政府撮影の「仏ソンム会戦」上映会を開催。皇族・陸海軍将官ら多数観覧。
27(水)●全国に大雪。鉄道故障・遅延が各地で続出。
28(木)●小山内薫『白林夜話』、風俗紊乱で発禁処分。
29(金)●大阪商船、南米航路開設(神戸―ブエノスアイレス間)。第一船「笠戸丸」就航。
30(土)●露宮廷の怪僧・ラスプーチン、暗殺される。
●牧野富太郎と神戸の池長孟、牧野救済で一万円の負債整理と標本一〇万点の譲渡を契約。
31(日)●五年の貿易額は前年の入超一億七三九五万円を大逆転、出超三億七〇七八万円と大蔵省。

娯楽多市

流行語
占い師の家の前に行列

「割引電車」。全国で方位方避けの占いが大流行、東京・浅草や小石川の伝通院前の占い師などは、家の前に行列ができるほどの人気だった。占ってもらう人は早朝の割引電車で出かけたから、方位方避けに凝っている人のことを、こう呼んだ。関西の中心は堺の方違神社で、ここにはお札をもらう人が殺到した。それが転じて「お札もらい」と呼ばれた。

「ゴム下駄」。パッとしない男のこと。この年、ゴム製の下駄が登場、音がせず軽いところから、日立たない、いるかいないかわからない男のことが、こう呼ばれた。原敬（後の首相）がある代議士をさして言ったのが最初と言われ、会社や学校から家庭まで広く使われた。

「衛生劇」。学生用語で、エッチな会話やシーンのこと。この年、公娼に性病の予防知識を徹底させるため「衛生劇」が上演され、吉原や新宿、品川などの公娼が集団で観劇させられた。この劇は、エッチな台詞やシーンも含んでいたから、それらを衛生劇と言うようになった。

「写真通信」

▲3月25日、上野公園の華山亭で行われた狆（ちん）のコンテスト。自慢のペットを胸に抱いた愛犬家たち。

人気
日に七、八件も帝劇のお見合い

この頃は公開の席でお見合いをしているのに、よくぶつかります。

今、東京でお見合いの場所として最も人気があるのは帝劇で、大安の日など七、八件を下らないということです。中に立つ人がお互いを見るのに都合のいい椅子を買って渡し、開演中でも幕間でもチラッチラッと見合いさせるのです。

ただ帝劇は周囲が華美なので、お嬢様の衣装なり器量なりが引き立たない恐れがあり、それが中に立った人の悩みの種とか。

次は三越、白木屋、松屋などの休憩室で、日に五件くらい。東京駅の一等待合室は日に二、三件。

ただこれらの場所は帝劇ほど華美ではない代わりに、あまり時間の余裕がありません。

最近は秋の文展が開かれる頃になると、その会場がよく利用されています。絵を見ながらチラッと先方を見ることができるし、見られた方は視線をさりげなく絵の方に移すことによって、きまりの悪い思いをしなくてすむからです。それに会場は絵をきれいに見せるため、光線に特別の配慮がなされています。そのせいもあって、文展の会場では女性が美しく見えると言われ、その点も女性に人気がある秘密のようです。

（「読売新聞」三月一一日）

食
天皇の食卓に進出 〝田中式豚肉料理〟

明治時代まで豚肉は牛肉よりも一段劣等で、消化も悪いと思われていた。これに対し、国民に豚肉常食の習慣を定着させようと奮闘したのが田中宏である。田中は東京帝大医学部名誉教授だったが、豚肉を食べないことを「宝の山に入りて手を空うするもの」とか「国家経済の一大損失」と主張し、次々に調理法を案出して世間に発表した。

それは〝田中式豚肉料理〟と呼ばれて評判になり、その評判は宮内省大膳寮にも届いた。同寮では寮頭の試食、次いで新宿御苑における宮内大臣以下の試食会などを行った結果、天皇の食膳にも豚肉を供することになった。大野大膳厨司の手によって調理された田中式豚肉料理が天皇の食膳にのぼったのは大正五年一月。これをきっかけに田中式豚肉料理の声価は一層高まり、豚肉の価値も見直されることになった。

（昭和女子大学食物学研究室編『近代日本食物史』）

◀「東京新滑稽」一一月一日号収録の、山田みのる画「女に弱い上官殿」。この頃、軍人を描いたマンガが流行。厳格に見える人物のウイークポイントを皮肉ったもの。

日本漫画資料館提供

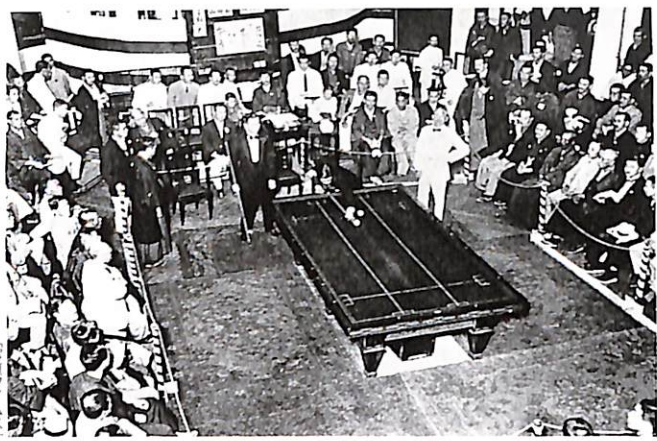
CM100年

新聞CM「エグロン石鹸の好評 長足の進歩──エグロン石鹸」（藤原商店化粧品部）

エグロン石鹸の好評
長足の進歩
藤原商店化粧品部

▶商品の品質向上、売れ行きの伸びを、「長足の進歩」とし、足の長い人物のイラストを配したユニークな広告。

三面記事
日本では三例目、夜の虹

「写真タイムス」

▲7月1日夜、万朝報社が私立衛生会で開催したビリヤード競技会。球を撞こうとしているのが初代撞球名人・山田浩二。

雨上がりの日中に七色の虹が出現することは我々の始終目撃するところだが、月夜の虹というのはかつて噂にも聞いたことがない。

然るに多少旧聞に属するが、先月一二日午後七時四〇分頃、千葉県北条町（現・館山市）の中心にある北条尋常小学校付近で夜の虹が目撃された。

目撃したのは東京地学協会の小林房太郎氏と令息の薫君（一三）で、父と子で夕食後の散歩中、西北の空にこの自然のいたずらとも言うべき夜の虹がかかっているのを実見した。その時は驟雨の後で、十三夜の月が雲の間から顔を出していた。色は昼間の虹とまったく同じで、七色ともくっきり見えた。

小林氏は中央気象台に行って、岡田武松博士にこのことを報告したが、博士によると、日本で夜の虹が目撃されたのはこれが三例目だが、今回のように鮮やかなものは初めてという。

（「東京朝日新聞」九月三日）

社会
平日の釣りに課税 大阪府庁の珍府令

〔大阪発〕三月二七日付で、大阪府庁から妙な府令が出た。従来の漁業税の中に遊漁税なる一項を加えて、四月一日からは日曜、大祭日、一日、一五日以外の日に釣りをするものに課税するというのである。その額は一等（地租一〇〇円以上、所得税二五円以上、もしくは営業税五〇円以上を納むるもの）は一年で二円、二等（一等以外のもの）は一円で、その家族も同様。もし無鑑札で釣りをすれば、二〇円以下の科料に処せられる。

これについて太公望たちは大恐慌をきたしているが、府では「休日以外に釣りなどして遊ぶものは一種の惰民だから、これに課税するのは何らさしつかえなかろう」と言っている。

（「大阪毎日新聞」四月八日）

レジャー
真打ちが身銭切る 不景気下の落語界

寄席芸人の収入の算出法は独特で、一人一人に客一人についての相場があり、その相場に入った客の数を掛け合わせて出すことになっている。今、数人の相場を上げると、三遊亭円右は一番高い口で、客一人につき一銭五厘。雷門助六は一銭二厘だが、一銭の時も多い。古今亭今輔は七厘だが、柳家小燕枝となると四厘五毛。曲ごまの松井源水も案外安くて五厘である。

この金を払った残りが真打ちの収入となるが、もし客の入りが悪くて一〇〇人に満たない時は一〇〇人として計算し、たりない分は真打ちが身銭を切ることになっている。昨今は不景気と活動の人気に客を取られ、真打ちの持ち出しも珍しいことではないという。

（「風俗画報」三月五日号）

◀前年一二月二日に誕生した澄宮（後の三笠宮）のために作られた乳母車。

この年の初もの
エイプリル・フールが日本でもはやり始める

●ショールーム　京都電灯が電熱器や扇風機などを展示したショールーム「電気の店」をオープン。

●乗馬クラブ　七月、神戸乗馬倶楽部設立。

●プログラム　浅草帝国館が、映画の解説や予告、投書などを載せたプログラムを発売。

●知能指数　スタンフォード大学のL・M・ターマン教授（心理学）が著書の中で、IQ（知能指数）という言葉を初めて用いる。

はやり歌

新磯節

作詞　添田啞蟬坊

沖の真ン中に　白帆が見ゆる
船は帆まかせ　帆は風まかせ
わたしゃ　あなたの
心まかせになる身じゃないか
雨は天から　横には降らぬ
風の模様で　横ッコに降るよ
わたしゃ　あなたに
縦にふるとも横にはふらぬ

▲歌詞の中のナイルスとスミスは、当時日本を訪れて宙返りや木の葉落としなどの曲芸飛行をやってのけたアメリカ人飛行士の名前。写真は飛び立つ前のスミス。

飛んだいたずら　あの宙返り
命ナイルス　それ見たことか
怪我で　スミスも
梶の鳥真似ちょとやりそこね
都はなれて　此の山ずまい
恋も浮世も　忘れて居たが
鹿の　鳴く音を
聞けば昔が恋しゅうてならぬ

電車

作詞　葛原　㐧
作曲　小松耕輔

チンチン　電車が動き出す
ゴウゴウ　町の真中を
走ってゆきます　チン　ゴウゴウ
御順におつめを願います
電車が走る　チン　ゴウゴウ
皆さん　電車が曲ります
曲りますから御用心
ころばぬように　つり革が
あかないように　願います
電車が走る　チン　ゴウゴウ

高田隆雄

▲600両余り製造され、路面電車として活躍した東京市電3000形3005号。大正12年、日比谷公園前にて。

毎日新聞社

▲富士登山者が、馬子と記念撮影（8月）。中央本線大月駅と吉田口間は鉄道馬車が走っていたが、貸馬も利用されていた。

世界の動き

「ロシア皇帝の家族は二年以上生きられない」！
青酸カリでも銃弾でも殺せなかった
怪僧・ラスプーチンの死と"予言"

◀ラスプーチンは、特異な容貌の持ち主だった。油で撫でつけた長髪、手入れをしない顎ひげ、そして何より特徴的なのは、「奇妙な光を発する」目である。

ノーボスチ通信社

二〇世紀初頭、革命前夜のロシアに忽然と現れ、その特異な超能力でロマノフ王朝の皇帝・ニコライ二世と皇后の信任を得て、隠然たる権勢を誇った謎の僧侶、ラスプーチン。性的な貪欲さや権力志向といった側面が面白半分に伝えられ、妖僧、悪党と呼ばれたが、近代史上、彼ほど実像の曖昧な人間はきわめて稀である。

◀社交界の信奉者に囲まれて。ラスプーチンは、淫らな言葉と野卑なふるまいで女性を引きつける術を心得ていた。
「イリュストラシオン」

『暗殺秘録』が記録した死から蘇る悪魔的な力

第一次世界大戦が勃発して三年目の一九一六年一二月二九日深夜、ペトログラード市街では、雪が渦巻くように降っていた。ロシア皇帝・ニコライ二世（四八）とアレクサンドラ皇后（四四）の絶大な信任を得ていた僧侶・ラスプーチン（四四）は、ユスポフ公爵（二九）邸の地下室にいた。彼は数日前、家族にあて異様な内容の手紙を書いている。

「わしは一月一日以前に生を終えるだろう。（中略）ロシア帝国皇帝よ、（中略）わしに死をもたらしたのがあなたの近親者であるなら、ご家族の誰一人として（中略）二年以上生きるものはいないだろう。ロシア国民に殺されるのだ」

死を強く予感したのに、たった一人で深夜ユスポフ邸を訪れたのは、ユスポフが自分の弟子・モウニアの親友だったのと、美人の誉れ高いユスポフの妻・イリーナ大公妃に関心があったからだ。ユスポフは、ラスプーチンを自邸におびき寄せるかっこうの餌を持っていたのである。第一次大戦開戦時にドイツから逃げ帰ったユスポフは、ロシアの上流社会の退廃ぶりに愕然とした。諸悪の根源はラスプーチンで、大戦でのロシアの劣勢はラスプーチンのドイツへの内報が原因だとも思いこみ、暗殺計画を練っていたのである。

地下室には、青酸カリ入りのケーキとワインが用意されていた。ユスポフ著の『ラスプーチン暗殺秘録』（青弓社）によれば、ラスプーチンは、ケーキをむさぼり食い、ワインを二杯がぶ飲みした。彼は致死量以上の毒物を摂取したことになる。しかし、何も起こらなかった。驚愕したユスポフは、接客中の妻の様子を見てくると言って、反ラスプーチン派で国会議員のプリシュケヴィッチら共犯者が待機している階上に行き、拳銃を受け取り、地下室に戻ってラスプーチンの背中を撃った。ラスプーチンは仰向けに倒れ、仲間の医師・ラゾヴェルトが死を確認する。

しばらくしてユスポフは、ラスプーチンが死から蘇る悪魔的な力を持っているのではないかと不安になり、死体をゆさぶってみた。顔の筋肉がピクリと動き、ラスプーチンはいきなり身を起こして喉笛につかみかかり、肩章をむしり取った。恐慌状態のユスポフをラスプーチンは憤怒の表情で追う。雪の積もった中庭を越えて、街路に走り出たラスプーチンを、逃げまわるユスポフに代わって、プリシュケヴィッチが拳銃で撃った。弾は肩と頭に命中し、倒れたラスプーチンのこめかみをプリシュケヴィッチが長靴で力一杯蹴りつけ、とって返したユスポフはゴムの棍棒でヒステリックにたたき続けた。朱に染まった雪の中の死体を、青いカーテンで包み、ロープで縛って車でネヴァ川まで運び、氷の穴に押しこんだ。死体は三日後に発見されるが、死因は溺死であった。ラスプーチンは毒を盛られ、弾丸を撃ちこまれても死なず、溺れて死んだのである。信じがたい生命力の持ち主であった。

血友病治療によって皇帝夫妻に取り入る

ラスプーチンは一八七二年、シベリアの寒村・ポクロフスコ村に農夫の子として生まれる。宮廷にラスプーチンが入るきっかけは、一九〇三～〇四年頃、ミハロフスキー修道院で生活費を稼ぐため薪割りをしている時、たまたま巡礼中に宿泊していた二人の貴婦人と出会ったことから始まる。ラスプーチンは、多くの聖地、修道院を遍歴し、この時は二度目のエルサレム旅行からの帰途だった。ラスプーチンは貴婦人たちに、自分は万病を治す能力があると語った。

ニコライ皇帝夫妻の皇太子・アレクセイ（当時・一歳）は血友病で、鼻出血で衰弱し、医師もお手上げの状態だった。

ノーボスチ通信社

▲ユスポフ公爵と、皇帝の姪にあたる妻のイリーナ。ユスポフは、ロシアきっての資産家の出で、服装倒錯者でもあった。

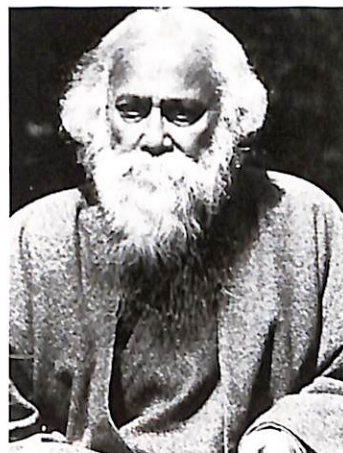
“適者生存”精神を批判した「詩聖」タゴールの講演

佐伯　修

大正時代の日本で、社会的センセーションを巻き起こした海外の学者・文化人の来日としては、大正一一年のアインシュタインと、この年のタゴールがあげられる。

早くから欧米で注目されていた、インドの詩人、ロビンドロナト・タゴール（一八六一～一九四一）の業績に対し、東洋人としては最初のノーベル賞が贈られたのは、三年前の大正二年のこと。そのタゴール来日がささやかれだした、この前年あたりから、日本では「詩聖タゴール」ブームが起き、詩集『ギタンジャリ』など著書の翻訳や紹介の類がどっと現れた。

ブームの魔力はおそろしい。五月二九日、神戸港に着いた、この静かな森での瞑想を愛する詩人を待っていたのは、歓迎の群衆と報道陣の「人間台風」であり、東京では大隈重信首相らの歓迎を受け、横浜では財界人・原三渓が自邸を宿舎に提供する。が、詩人は慶応大学における講演で、西洋で有名な自分への大歓迎は、間接的な西洋への迎合ではないかとの不安を表明、こうも述べた。

「わたしは日本が、科学から取り入れた『適者生存』という標語を、現代歴史の入口に大きく掲げているのを見ることができます。そのモットーの意味することは『さっさと、自分の好きなことをやれ、そしてそれが他人にどんな損失をもたらそうが気にとめるな』ということであります。しかしそれは盲目的な人間のモットーであります。（中略）眼の見える人々は、人間と人間とは非常に密接に結びついているので、誰かをなぐろうとすると、その打撃は、やがて自分に戻ってくることを知っております。（中略）ひたすら愛国心を礼讃させ、道徳的盲目さを養う国民は、やがて突然の死によって、その存在を終わるでありましょう」（高良とみ訳「日本の精神」）

▲河口慧海とも親交があった。

こうしたタゴールの発言に、日本の国威発揚と近代化を否定するものだとの批判があがり、彼は「亡国の詩人」とそしられた。

タゴールと日本の出会いは、明治三四年、インドに旅した岡倉天心と友情を結んだことにあった。そんな、亡き友人・天心の、茨城県五浦の旧居を訪ねた詩人は、九月二日の離日前後に、友人に書き送っている。

「私は日本の人々が岡倉の真価を全然理解していないのに驚いた」「私はたくさんの重要人物と話をしたが、岡倉のような天賦の才を持った者はひとりもいなかった」（丹羽京子『タゴールと日本』より）

詩人は、大正一三年と昭和四年にも来日したが、もはやブームは起きなかった。

一九〇五年一一月、宮廷に招かれたラスプーチンは一握りの樹皮を取り出し、熱湯で煮て、その塊で病人の顔をおおった。出血はぴたりと止まった。以降、皇太子の健康がちょっと悪化しても、この神秘療法師が呼び出される。不眠や熱病は電話で話すだけでことたりたという。ラスプーチンは、皇太子を溺愛する皇后に大きな影響力を持つようになり、奇跡的治療の噂はまたたく間に広まった。

ラスプーチンの風貌は生粋のロシア農民そのものである。がっしりしていて中背、灰色の目は落ちくぼみ、視線は鋭く射るようである。いつも油をつけた栗色の髪は、長く重い。容貌も魁偉だったが、ペトログラードの上流社会の中では異質な存在で、貴族のサロンでは限りなく野卑にふるまった。強力な大臣であろうが、貴婦人であろうが、このうえない不遜な態度で無遠慮な対応をしたが、誰もこの皇后の寵児にあらがえなかった。ところが農民や自分の家族たちと話をする時は、別人のようになり、罵ったりはしなかった。

「貴族階級を憎悪し、農民君主制を夢見ていた」（『ユダヤ人とラスプーチン』新人物往来社）とラスプーチンの秘書・シマノウィッチが書いているが、真偽はさだかではない。

大変な放蕩者であるラスプーチンは大公、大臣らの愛人を籠絡して上流社会の夜の秘密を知り、勢力を拡大したと言われる。皇帝夫妻に強い影響力を持ち、内相や陸海軍大臣の任免にまで口出しした。しかし、ラスプーチンには、ユスポフらが危惧したような、ロシア政府を牛耳るほどの影響力はなかった。ロシア文学者の沼野充義氏は、ロシアの崩壊は、時代の流れであると言う。

「ラスプーチンの周囲に対する影響力が大きかったことはたしかですが、多くの評伝には相当尾ひれがついている。その時ロシアはすでに手のつけられない状態だった。国全体の足腰がすでに弱っていて、末期的な症状を呈していたのです」

一九一七年三月八日（ロシア暦二月二三日）、革命がペトログラードで始まり、事態はラスプーチンの予言した方向へと進んでいくのである。

ニコライ二世（1868～1918）
帝政ロシア最後の皇帝。極東への進出をはかり、一九〇五年日露戦争で敗北。一七年の「二月革命」で退位しシベリアへ流され、翌年七月処刑された。

ノーボスチ通信社

▶ラスプーチンと子どもたち。ウラルに近い自宅前で。

オリオン・プレス

▲11月22日　ジャック・ロンドン（40）
米国の小説家。下級船員、金鉱坑夫など種々の職業を経て、1903年『野性の呼び声』を発表。ほかに『白い牙』など。

ヤマハ提供

▲8月6日　山葉寅楠（65）
実業家で、日本楽器製造（現・ヤマハ）創設者。明治21年日本初の本格的オルガンを作製。ピアノも初めて国産化。

毎日新聞社

▲3月18日　初代市川右団次（72）
幕末から大正期の歌舞伎俳優。文久2年（1862）右団次を名乗る。上方歌舞伎の立て役者として活躍した。

▲2月9日　加藤弘之（79）
明治期の国法学者で、ドイツ学の先駆。初代東京大学綜理、帝国学士院院長などを歴任。著書に『人権新説』など。

▲12月5日　ハンス・リヒター（73）
オーストリアの指揮者。ワーグナーのオペラを得意とし、1893～1900年までウィーン宮廷歌劇場音楽監督。

▲7月9日　上田敏（41）
明治期の詩人、翻訳家で、雑誌「明星」などに外国文学を紹介。特にボードレールの翻訳で詩壇に影響を与えた。

▲12月10日　大山巌（74）
明治期の陸軍軍人。西郷隆盛の従兄弟。日本陸軍創設にたずさわり、明治18年より6代の内閣で陸相、31年元帥。

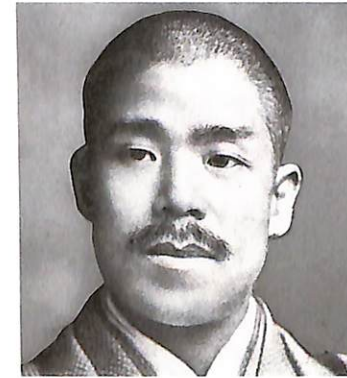
▲9月24日　高田実（45）
明治期の新派俳優で“新派の団十郎”と言われた。明治29年成美団結成、後に東京・本郷座を拠点に脇役として活躍。

▲7月16日　E・メチニコフ（71）
仏（露生まれ）の生物学者。1883年細胞の食菌作用を発見、食細胞説を提唱。1908年ノーベル医学・生理学賞受賞。

オリオン・プレス

▲2月19日　E・マッハ（78）
オーストリアの物理学者で、超音速などの研究に「マッハ数」の概念を導入。ウィーン大学哲学教授もつとめた。

松竹演劇提供

▲12月18日　初代渋谷天外（44）
喜劇俳優。明治40年曽我廼家箱王と組んで楽天会を結成。淡々とした芸風と斬新なアイディアで人気喜劇団に。

▲11月7日　桃中軒雲右衛門（43）
明治・大正期の浪曲師。「義士銘々伝」が九州で大当たり。東京・歌舞伎座進出もはたし、浪曲中興の祖と呼ばれた。

安田建一提供

▶2月28日　今村紫紅（35）
明治から大正期の日本画家。大正元年文展に「近江八景」が入賞、色彩豊かな紫紅様式を確立。三年赤曜会を結成。写真右が今村紫紅、左は安田靫彦。

ミニ事典
1916年のキーワード

ローズボウル
米国・ロサンゼルス近郊のパサディナ市で行われる、大学リーグ対抗・アメリカンフットボール試合。一九〇二年創設。一九一六年一月一日、同市の実業家協会が、西部のブラウン大と東部のワシントン大を招いて一四年ぶりに実現。以後、定例化した。名称は市の名物、ローズパレードにちなみ、後に開催した市の特産名を冠したオレンジボウル、シュガーボウル、コットンボウルとともに四大ボウルのひとつとなった。

連鎖劇
映画と舞台を組み合わせて構成した劇。スピーディーでわかりやすいのが特徴で、寄席や劇場でさかんに行われた。映画会社・天活が力を注ぎ、東京・大阪で次々に製作、興行した。特にこの年一月一二日、天活は大阪に連鎖劇専用撮影所を完成。千日前の直営劇場「楽天地」で、家庭悲劇に材を取った「須磨の仇浪」を上演、好評を博してから流行に火がついた。

バルカン特急
ベルリン—イスタンブール間を、六〇時間余で結ぶドイツ経営の国際鉄道定期便。戦時下の同盟国間を縦断する大動脈となった。一月一四日午前七時二〇分、一番列車がベルリンのアンハルター駅を発車、ドレスデン、プラハを経て、翌日、ウィーン、ブダペスト、ベオグラードを通り、一六日、ソフィアを経て夜七時三七分、終着駅に着いた。

▶パリからのオリエント急行が休止の中、一番列車がベルリンを出発。
Ullstein/ユニフォト・プレス

海軍航空隊
日本海軍の根拠地、横須賀軍港に四月一日に設置された海軍初の航空部隊。海軍将校に対して航空機の操縦、機関取り扱いなどを教え、パイロット養成も兼ねた。初代司令・山内四郎大佐。欧州戦線での航空機の活躍から、海軍は飛行隊三隊の創設を計画。議会で予算も承認され、六月には第一期生が入隊した。後に佐世保、霞ケ浦にも航空隊が設置された。

色盲検査表
眼科学者・石原忍が徴兵検査用に考案した、色覚異常(赤緑色盲・赤緑色弱)を発見するための表。四月二八日、「日本眼科学会雑誌」に発表。文字や数字を一定の色調・明度を持った色斑で描き、まわりをそれに対応する種々の色調・明度の色斑で囲ったもの。色覚異常者は、数字や文字が読めないか誤って読むとされた。石原はこの研究で昭和一六年、帝国学士院賞を受け、三六年文化功労者に推された。

サイクス・ピコ協定
第一次大戦後のオスマン・トルコ帝国の中東領域分割について、英仏がロシア承認のもとに交わした秘密協定。五月九日調印。前月のアジア・トルコ分割の秘密協定と合わせ、三ヵ国とイタリアの勢力範囲を決定。しかし前年、英国がアラブの国家建設を承認したフサイン・マクマホン協定と矛盾したため、その締結の見返りに、反トルコ蜂起に決起したアラブ民族主義者たちの怒りをかった。

インメルマン旋回
宙返りの頂点で半横転し、高度を保ちながら向きを変えるテクニック。空中戦の画期となった。独軍パイロット、マックス・インメルマンが考案・得意技とし、「リール(北フランスの独軍航空基地)の鷹」と連合国軍から呼ばれ、恐れられていたが、六月一八日英軍機に撃墜され戦死した。インメルマン機は、プロペラの回転と連動して銃弾を発射する「機銃同調装置」を備え無敵を誇った。

闘犬・闘鶏・闘牛取締規則
犬・鶏・牛を闘わせ、興じることを禁止した警視庁の命令。七月二六日制定、即日施行された。この頃、特に犬を闘わせることがさかんで、東京には旭倶楽部、中央倶楽部、ケンネル倶楽部などができ、観客を一〇〇〇人近くも集めて毎週、闘犬の会を開き、賞金を出す倶楽部もあるほどだった。警視庁はこの事態を、人間の残酷性を助長し賭博を促進すると判断、禁止した。

鄭家屯事件
中国東北部・遼寧省の鄭家屯で、八月一三日に起きた日中両軍の衝突事件。モンゴルと「満州」独立をめざすモンゴル軍の南下を防ぐために派遣された張作霖軍兵士が、日本人商人と口論。これをきっかけに、中国軍が同地に駐屯する日本軍兵営を襲撃し、日本側一六人、中国側四人の死者を出した。翌月、日本は中国に日本人軍事顧問招聘、要所への警察官配置などを要求したが、中国は強く反発、翌年一月に責任者処罰と賠償金支払いで妥協が成立した。

「写真通信」
▲9月6日、大連・西本願寺での戦死者追悼会の後、大連港に向かう葬列。

憲政会
大隈重信内閣の与党だった立憲同志会、中正会、公友倶楽部が合同して一〇月一〇日に結成した新党。大隈が後継首相に推薦した加藤高明が総裁に就任。所属代議士は二〇〇人となり、原敬総裁の政友会一一〇人を凌駕、元老・山県有朋が強引に成立させた寺内正毅内閣に激しく対立した。しかし翌年の選挙で惨敗、大正一三年に加藤内閣が成立するまで、「苦節一〇年」が続いた。

毎日新聞社
▲憲政会新総裁の加藤高明(56・左)。10月10日の結成大会で。

元老の宮中闖入事件
内閣交代を批判し、社説に「元老の宮中闖入」と書いた「報知新聞」が、一二月一〇日に発禁、主筆・須崎芳三郎ら二人が告発され、禁固三ヵ月の罪に問われた事件。「報知」は、大隈首相が一〇月四日に参内し天皇に辞表を提出した直後に、山県有朋ら元老が開いた会議が、「御召し」によるというのは虚偽であると追及。辞職首相が後継者を奏薦しているにもかかわらず、天皇がとっさに勅諚を発したことの疑義をついた。

週刊YEAR BOOK/日録20世紀1916
CONTENTS

●特集
第一次世界大戦に"新兵器"続々ソンム戦線に「タンク」出現!……2
大杉栄、伊藤野枝、神近市子の三角関係 葉山「日蔭茶屋事件」の顛末……6
法案成立から五年後にようやく施行! 労働者保護「工場法」のザル法ぶり……27
青酸カリでも銃弾でも殺せなかった! 怪僧・ラスプーチンの死と"予言"……38
●ニュース・ファイル
フォト+日録で再現する366日……10・30
女たちの肖像
水谷八重子、松井須磨子と共演 稲葉真弓……9
勝者・敗者
"遅咲き"西ノ海、横綱に! 阿部珠樹……9
証言・あの日この日 山崎行太郎……15・31
「現場」を歩く
廃墟と化した「軍艦島」と元住民 山本徹美……17
20世紀博物館
日本の鬼の交流博物館(京都) 桑原茂夫……26
外から見たNIPPON
「詩聖」タゴールの日本批判講演 佐伯修……40
●モノ語り'16
「レートポマード」「ナットボタン」「名古屋帯」……19
●人物クローズアップ
吉野作造、「民本主義」を提唱!……20
●決定的瞬間
ダブリン、イースター蜂起!……22
●美の出会い
"前衛"第一号! 東郷青児「二科展」入賞……24
ベストセラー……18 スターと名場面……18
俄楽多市……36 はやり歌……37
往きて還らぬ……41 ミニ事典……42

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室(茂村巨利)+渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 (有)エービーシープレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ (有)マックス (有)マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正
●写真協力
石井美雄 大畑俊男 近藤千浪 高田隆雄 高田寛 高山盛正 但馬一憲 田中純一郎 東郷たまみ 平尾昌晃 安田建一 山口健司 渡辺充俊
ARCHIVE PHOTOS 「イリュストラシオン」 オリオン・プレス 郷土出版社 中央公論社 長崎新聞社 ノーボスチ通信社 Popperfoto 毎日新聞社 マツダ映画社 ユニフォト・プレス 松竹 松竹演劇 日影茶屋 ヤマハ
大宅壮一文庫 切手とお札の博物館 国立国会図書館 古文書複製社 三康図書館 島津創業記念資料館 東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫 日仏会館図書室 日本カメラ博物館 日本近代文学館 日本漫画資料館 日本郵船歴史資料館 ボタンの博物館 水島衣裳雑貨博物館 安田火災東郷青児美術館 ユニチカ記念館 吉野作造記念館